

2014年  
平成26年

# 三重県立総合医療センター一年報

地方独立行政法人  
三重県立総合医療センター

# 平成26年三重県立総合医療センター年報

## 目 次

1	三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針	1
2	病院の概要	
(1)	沿革	2
(2)	施設整備の概要	6
(3)	学会認定状況	9
(4)	組織機構図	10
(5)	職種別定数及び現在員数	11
3	各診療科・部門の概要	
(1)	診療部（各診療科診療実績）	12
(2)	看護部	38
(3)	中央放射線部	42
(4)	中央検査部	43
(5)	薬剤部	44
(6)	栄養管理室	45
(7)	地域連携課	
(8)	医療安全管理部	47
(9)	学会・研究会発表及び論文発表実績	52
4	統計データ	
(1)	患者統計	79
(2)	病歴管理室統計	82
(3)	図書蔵書状況	91

# 1 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

## 基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

## 基本方針

- 1 患者の皆様のご権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

## 受診される皆様のご権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様のご理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

## 守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえで受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

## 2 病院の概要

### (1) 沿革

- 昭和23年 8月 三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し、「三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院」として発足  
初代院長・渡辺篤就任 病床数：113床
- 25年 4月 塩浜病院乙種看護婦養成所を設立  
6月 第二代院長・高安正夫就任  
12月 生活保護法に基づく保険医療機関指定  
病床数：134床（普通病床：99床、結核病床：35床）許可
- 27年 借用中の国有財産（土地：7,270坪、建物：18棟1,809坪）を譲受
- 28年 2月 第6病棟（木造平屋建）竣工  
4月 三重県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校を併設  
5月 「総合病院」の名称使用承認
- 30年 7月 鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として、病院敷地内に「産業医学研究所」を設立
- 31年 7月 第1病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
- 32年 3月 第3病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工  
8月 健康保険法に基づく保健医療機関指定  
病床数：307床（一般：220床、結核：87床）許可
- 33年 10月 基準看護（一般・結核）、基準給食承認  
11月 病床数：307床（一般 208床、結核：87床・伝染病：12床）許可
- 34年 1月 国民保険法に基づく保険医療機関指定  
東5病棟（鉄筋コンクリート4階建）竣工  
9月 病床数：465床（一般：354床、結核99床、伝染病：12床）許可  
11月 中央治療棟（鉄筋コンクリート3階建）竣工
- 35年 1月 県立大学行政機構改革に伴い、「三重県立大学医学部附属塩浜病院」、「県立大学医学部附属准看護婦学校」へ改称
- 36年 10月 手術室、ボイラー室及び変電室竣工
- 37年 5月 病床数：465床  
（一般：354床、結核：91床、精神病：8床、伝染病：12床）許可  
8月 病床数：465床（一般：354床、結核：99床、伝染病、12床）許可
- 38年 3月 外来診療B棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
- 39年 3月 外来診療A棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工  
7月 基準寝具承認  
12月 看護婦宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工
- 40年 4月 第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置  
第三代院長・藤野敏行就任
- 41年 2月 病床数：465床（一般：354床、結核：52床、精神病47床、伝染病：12床）許可  
5月 「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
- 44年 4月 第四代院長・宮地一馬就任
- 48年 3月 院内保育所（木造平屋建）竣工
- 49年 4月 県立大学の国立移管により、三重県立大学医学部附属塩浜病院及び県立大学医学部附属准看

護婦学校を廃止し、「三重県立中央病院」、「塩浜高等看護学院」として発足

第五代院長・高崎浩就任

- 9月 病院名称を三重県立中央病院から「三重県立総合塩浜病院」に改名
- 50年 6月 第六代院長・森幸夫就任
- 51年 4月 解剖霊安棟（木造）を鉄筋2階建に改築
- 5月 給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修
- 52年 4月 第5病棟西棟（木造2階建）を鉄筋コンクリート4階建に改築
- 53年 4月 第1病棟1階を検査室と薬品倉庫に改修
- 54年 3月 防災設備（スプリンクラー等）を改修
- 54年 9月 病院群輪番制病院
- 55年 8月 外来棟冷房設置及び駐車場を整備
- 57年 8月 基準寝具承認
- 58年 1月 医事業務の電算化
- 3月 第3病棟の病床（産婦人科）を第5病棟に移設（7看護単位）、塩浜高等看護学院廃止
- 6月 X線コンピュータ断層診断装置を設置
- 59年 3月 第6、第7病棟、第三宿舎、倉庫2棟の木造建築解体撤去、東5病棟改修、外壁塗装
- 8月 結核病床52床、精神病床47床、伝染病12床を廃止（一般病床354床許可）
- 60年 3月 食器洗浄棟設置
- 61年 12月 「県立総合病院整備基本計画」策定
- 62年 3月 注射用与薬車を全病棟へ導入、錠剤自動分包機導入
- 平成 2年 3月 高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
- 3年 3月 県立総合医療センター建設用地取得
- 4月 第七代院長・杉山陽一就任
- 4年 1月 県立総合医療センター建設工事着工
- 3月 県立総合医療センター（一般：350床、救命救急センター：30床）開設許可
- 7月 ヘリポート設置許可承認
- 5年 4月 夜間看護等加算の承認
- 6年 6月 医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
- 4月 医事課を医事経営課に改める
- 6月 県立総合医療センター竣工
- 9月 県立総合塩浜病院閉院
- 平成6年 10月 県立総合医療センター開院
- 救急病院指定
- 身体障害者福祉法による更生医療指定病院承認
- 結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院承認
- 母子保健法による養育医療指定病院承認
- 臨床研修指定病院承認
- 保険医療機関指定承認
- 労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢探型指導医指定変更承認
- 労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
- 7年 4月 NICU施設認定
- 8年 2月 「エイズ治療拠点病院」指定
- 4月 八代院長・宗行万之助就任

- 9年 1月 「基幹災害医療センター」指定（24年4月より「基幹災害拠点病院」指定）
- 11年 4月 九代院長・鈴木宏志就任  
適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修
- 4月 「第二種感染症病床指定医療機関」指定  
病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症4床）許可
- 7月 セミオープンベット開設
- 14年 8月 「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 10月 十代院長：小西得司就任
- 15年 3月 地域周産期母子医療センター指定（NICU3床、GCU7床）
- 4月 「へき地医療拠点病院」指定
- 8月 新オーダーリングシステム導入
- 9月 救命救急センター HCU ICU CCUに分離（ICU CCU 7床→6床）
- 16年 3月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.3）  
パーキングシステム設置
- 4月 患者相談窓口設置
- 6月 外来化学療法室を開設（6床）
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和ケア外来開設
- 8月 初代電子カルテシステム導入
- 20年 3月 放射線治療システム（ライナック）設置更新
- 4月 十一代院長：高瀬幸次郎就任  
クレジットカード決済開始  
災害用地下水供給システム設置
- 7月 セカンドオピニオン外来開設
- 10月 外来化学療法室の移転（2階）及び増床（7床→10床）
- 11月 自治会との災害給水協定締結  
血管造影撮影装置（心臓・頭腹部アンギオ）設置
- 21年 3月 三重DMA T派遣協定締結（三重DMA T派遣病院）
- 4月 DPC（医療費定額支払制度）開始
- 6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.5）
- 8月 がんサポート室開設
- 10月 7対1看護基準取得
- 22年 6月 地域連携室移転整備（「かけはし」の開設）
- 10月 320列マルチスライスCT設置
- 23年 8月 2代目電子カルテシステム導入
- 24年 4月 地方独立行政法人化  
初代理事長：高瀬幸次郎就任（院長兼務）
- 25年 3月 内視鏡棟完成（内視鏡センター設置）  
病床数（一般409床、救命救急センター30床、感染症4床）許可
- 25年 4月 周産期棟完成
- 25年 6月 地域医療支援病院承認

26年 1月 MFICU 5床を供用開始

27年 1月 3.0テスラMRI増設

## (2) 施設設備の概要

●所在地 四日市市大字日永 5450 番の 132

### ●病床数

一般	409 床
感染症病床	4 床
救命救急センター	30 床
計	443 床

### ●診療科目

内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
神経内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科
脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科
皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科
精神科	放射線診断科	放射線治療科	麻酔科
病理診断科			

### ●本館敷地・建物概要

敷地面積	59,450.90 m <sup>2</sup>
建物規模	地下1階、地上7階、塔屋2階
建物構造	高層部 SRC 造、低層部 RC 造
建築面積	9,764.56 m <sup>2</sup>
延床面積	29,977.74 m <sup>2</sup>
駐車台数	約 700 台

### ●附属施設

医師公舎	RC 2 階建、延床面積： 517.86 m <sup>2</sup>	(12 戸)
看護師宿舎	RC 3 階建、延床面積： 1,758.99 m <sup>2</sup>	(68 室)
院内保育所	RC 平屋建、延床面積： 233.40 m <sup>2</sup>	

### ●厚生施設

食堂（7階）、売店、喫茶、自販機コーナー、授乳室（1階）

### ●付帯設備

電子カルテシステム・オーダーリングシステム  
気送管搬送システム  
屋上ヘリポート  
院外処方 F A X ステーション  
災害備蓄倉庫

## ●電気設備

受変電設備	受電電圧 6.6k V 変圧器容量 4,570 k V A
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3 相 3 線 6.6k V 1,000k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220V 200k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220/100V 150k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220V 150k V A × 1 台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000L (A重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75k V A
電気時計設備	親時計 1 台、子時計 268 台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,440W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR 型複合型受信機 (5 系統、1018 アドレス)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、防犯カメラ設備、太陽光発電装置

## ●空気調和設備

主熱源 発生機 1 台	空気熱源スクリーヒートポンプ冷凍機 2 台、ガス焚冷温水  合計約 610 冷凍トン
主空調方式 空調制御設備 除く)	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン 中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを
換気設備	給気設備、排気設備

## ●給排水衛生設備

給水設備	上水受水槽 216,000L × 1 台 井水受水槽 102,000L × 1 台 上水高架水槽 60,000L × 1 台 井水高架水槽 40,000L × 1 台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、 検査系の 4 系 統処理能力 712 m <sup>3</sup> /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m <sup>3</sup> /日
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2 基最高使用圧力 10kg/ccli 最大蒸発量 2.4t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気
エレベータ設備	一般用 2 台、業務用 4 台、配膳用 1 台、ヘリポート搬送用 1 台、検体搬送用 1 台

## ●気送管搬送設備

23 ステーション 外来系・病棟系 2 系統
---------------------------

●ヘリポート設備

陸上ヘリポート（屋上）耐重量 6.4 t

着陸帯 22メートル（長さ）×18メートル（幅）

●高額備品一覧

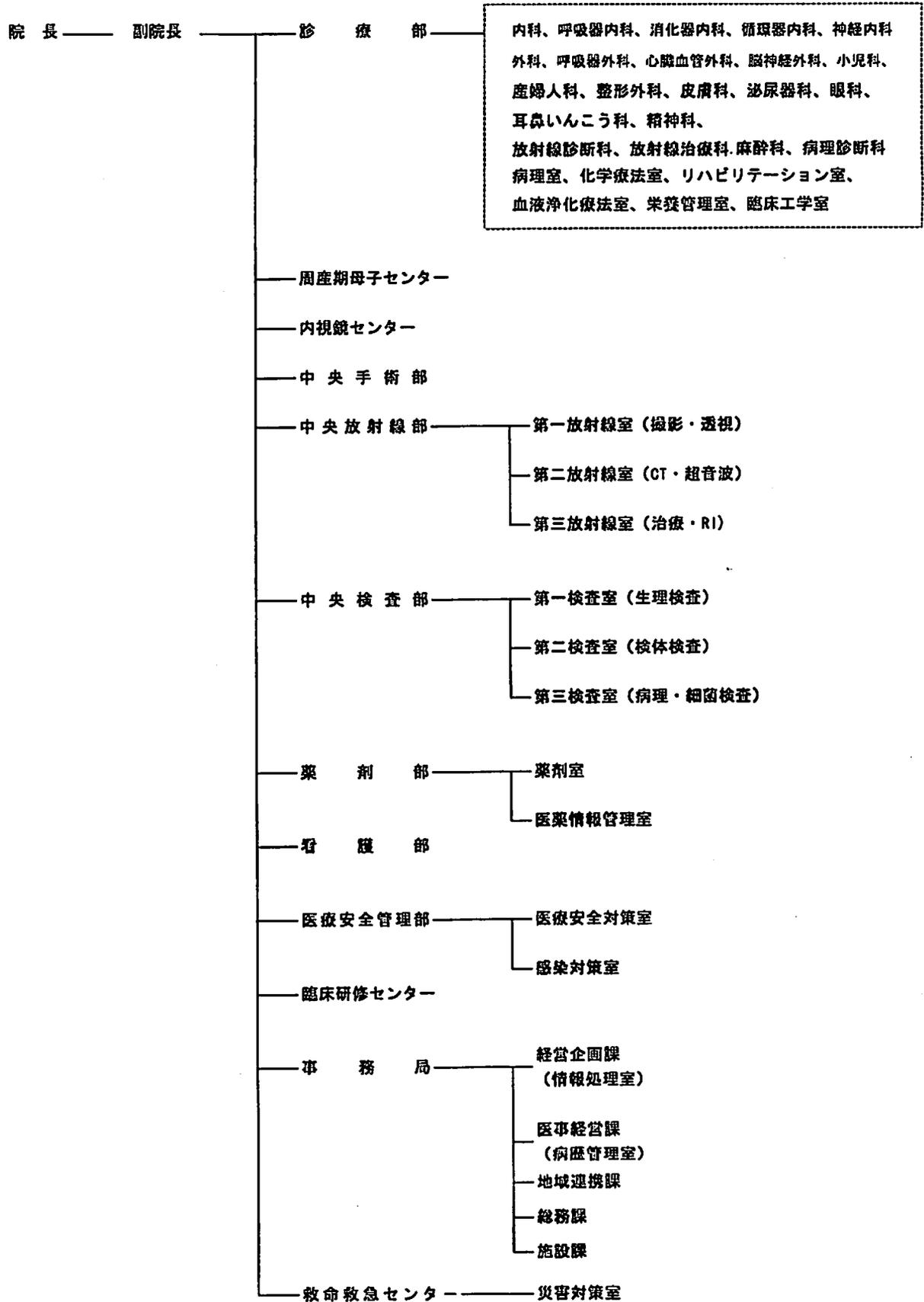
年度	資産名称	メーカー	規格	数量
2009	汎用超音波診断装置	GE	LOJIO E9	1
2009	関節鏡視下カメラシステム 一式	ジンマー	Linvatec IM400	1
2009	ガンマカメラ	シーメンス	Symbia E	1
2009	X線透視撮影装置	東芝メディカル	ZEXIRA	2
2010	X線CT診断装置	東芝メディカルシステムズ	Aquilion ONE	1
2010	患者監視装置システム（救命救急センター）	日本光電	MU-960R他	1
2010	ハイビジョンカメラシステム	カールストルツ	IMAGEL HDカメラコントロールユニット	1
2011	脚剤支援システム	トーショー		1
2011	麻酔記録モニタシステム	日本光電	CAP-0500, CNS-9601他	1
2011	手術室无影灯システム	山田医療照明	SKYLUX SKYLED R9 BR01H	1
2011	人事給与システム（ソフトウェア分）	株式会社ワークスアプリケーション		1
2011	財務会計システム	株式会社BSNアイネット		1
2011	新医療情報システム（電子カルテ・オーダーリングシステム）	（株）ソフトウェア・サービス		1
2011	新医療情報システム（放射線システムPACS）	ピー・エス・ピー（株）		1
2012	汎用超音波診断装置	GEヘルスケア		1
2012	関節鏡視下カメラシステム	ジンマー		1
2012	生体情報監視装置	フィリップス		1
2012	高度集中治療用サブライユニット	ドレゲル		1
2012	眼底カメラ	日本ルミナス		1
2013	マンモーム付乳房撮影装置	富士フィルムメディカル 他	AMULET F, SCM1 他	1
2013	高圧蒸気滅菌装置	㈱ウドノ医機	SHS-U1413-D/FL	3
2013	生化学自動分析装置	㈱日立ハイテクノロジーズ	LABOSPECT006	1
2013	レーザー光凝固装置	トプコン	PascalStreamLineYellow	1
2013	超音波診断装置	GE Healthcare	VolusonE8	1
2014	3.0T-MRI	フィリップス	Ingenia 3.0T R5	1
2014	泌尿器用X線検診システム	島津製作所	UROVISION II	1
2014	超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7	1

### (3) 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会認定制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・日本医学放射線学会専門医修練協力機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本胸部外科学会認定医認定制度指定病院
- ・日本呼吸器外科学会専門医認定制度指定関連施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本周産期 新生児医学会周産期新生児専門医暫定研修施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設
- ・日本乳癌学会認定医 専門医関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本アレルギー学会認定準教育施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・救急科専門医指定施設

(4) 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 組織機構図

平成26年4月1日



## (5) 職種別定数及び現在員数

平成26年4月1日現在

職種	区分	配置数	現在員	過不足	嘱託/業務補助等
一般職	一般事務職	25	25	0	15
	電気技師	2	2	0	0
	情報技師	1	1	0	0
	建築技師	0	0	0	0
	保育士	0	0	0	0
	医師	97	102	5	1
	薬剤師	15	14	▲1	0
	管理栄養士	3	2	▲1	2
	臨床検査技師	22	22	0	4
	診療放射線技師	19	19	0	0
	理学療法士	5	5	0	0
	作業療法士	2	2	0	0
	言語聴覚士	1	1	0	0
	臨床工学技士	4	4	0	0
	看護師・助産師	364	381	17	48
	准看護師	0	1	1	2
	医療福祉技師	3	3	0	1
	診療情報管理士	1	1	0	0
	司書	0	0	0	1
	保健師	0	0	0	0
施設管理専門員	0	0	0	1	
医師事務補助職員	0	0	0	2	
小計		564	585	21	77
現業職	病院施設管理員	1	1	0	0
	看護助手	0	0	0	12
	看護補助			0	17
	労務員			0	0
	小計		1	1	0
合計		565	586	21	106

\*現在員数には県等からの派遣職員を含む

### 3 各診療科・部門の概要

#### (1) 診療部（各診療科診療実績）

##### 呼吸器内科

主な疾患について記します。

##### <肺癌>

肺癌に対する集学的治療に力を入れています。患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるとこちらが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。また、院内緩和外来の開設により、痛みなどの症状にも、より対処できるようになりました。

##### <気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。呼気中一酸化窒素濃度測定による気道炎症の評価や、モストグラフによる気道抵抗評価を行うことでより客観的な管理が可能になりました。

##### <慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。長時間作動型吸入抗コリン薬などによる治療や呼吸リハビリテーションにより労作時息切れなどの改善を目指します。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

##### <肺炎>

高齢化社会を反映して肺炎による死亡は増加の一途を辿っており、ついに脳卒中を抜いて日本人の死因の第3位になりました。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

##### <その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくこととなります。

3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

#### ◆平成 26 年入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
肺癌	371 例	
肺炎	240 例	
慢性閉塞性肺疾患 COPD	122 例	肺炎等と重複あり
自然気胸	48 例	特発性 24、続発性 24
間質性肺炎	42 例	
気管支喘息	48 例	

#### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績（5年生存率など）

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上まわる治療成績を出しています。

#### ◆その他

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、  
日本感染症学会認定施設、日本アレルギー学会準認定施設

◆診療方針

消化器内科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っています。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆主疾患を含む治療性成績

平成 26 年 消化器科入院診療実績

肝癌	77
食道癌	7
胃癌	48
十二指腸・小腸癌	3
大腸癌	27
胆道癌	17
膵癌	23
胃ポリープ	6
大腸ポリープ	106
胃・食道静脈瘤	20
胃・十二指腸潰瘍	46
胃腸炎	64
消化管出血	48
腸閉塞	53
肝炎	33
肝硬変・肝不全	38
胆石症・胆道炎	102
膵炎	28
その他	89
総数	835

◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝癌に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 26 年 消化器検査および治療施行数 (下記は当院全体の施行数です)

上部消化管内視鏡	1948 例
上部拡大内視鏡	345 例
経鼻内視鏡	31 例
超音波内視鏡(上部消化管)	44 例
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	26 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	4 例
食道静脈瘤結紮術(EVL)	25 例
上部消化管内視鏡的止血術	93 例
内視鏡的上部消化管ステント挿入術	11 例
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	31 例
下部消化管内視鏡	1288 例
下部拡大内視鏡	87 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	246 例
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	13 例
内視鏡的下部消化管ステント挿入術	6 例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	133 例
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD/ERBD)	28 例/40 例
内視鏡的総胆管結石除去術(EST/EPBD)	54 例/6 例
内視鏡的胆管ステント挿入術	9 例
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	10 例
カプセル内視鏡(小腸,大腸)	30 例
肝動脈塞栓療法 (TAE/TAI)	44 例
肝腫瘍ラジオ波焼灼術(CT・エコーガイド下)	28 例

当科は心臓血管疾患および高血圧等循環器疾患を広く担当しております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携をとり対処しております。

虚血性心疾患の方には、320列マルチスライスCTによる冠動脈CT、非侵襲的な核医学検査とともに必要と思われる患者さんには積極的に心臓カテーテル検査を行っております。左心カテーテルの穿刺部位は手首の動脈(橈骨動脈)、肘の動脈(上腕動脈)、太ももの動脈(大腿動脈)を使用しておりますが、なるべく患者さんの負担にならないよう手首か肘の血管を選択するようにしております。冠動脈疾患の場合、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法(投薬観察)か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈インターベンション(冠動脈形成術)では、穿刺部位は手首の血管をほとんどの例で使用していますので、侵襲が少なく術後安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようにし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置の利用等手段を駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療にあたっています。より高度な不整脈治療を希望される場合は、大学病院の専門医に紹介させていただく場合もあります。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療(抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など)を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科との綿密な連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は緊急性が高いため、当科は24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機にて診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんにおいても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

#### ◆入院疾患の概要

---

疾患名	事例数
狭心症	299
心不全	207
急性心筋梗塞	63
慢性虚血性疾患	102
肥大型心筋症	5
拡張型心筋症	8

#### ◆主疾患を含む治療性成績

---

冠動脈造影総数 462 例

経皮的冠動脈形成術数 131 例

初期成功率 98% (129/131 例)

ステント挿入 122 例

POBA (拡張のみ) 7 例

ペースメーカー植え込み術 30 例(新規 20 例 交換 10 例)

#### ◆主疾患プロトコール

---

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞

急性大動脈解離 ペースメーカー植え込み・電池交換

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

#### ◆主疾患を含む治療方針と概要

---

##### ・脳卒中

脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。年間200から250人、主に虚血性脳血管障害中心に担当。

毎日24時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。

##### ・超急性期加療

脳梗塞発症4.5時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づきt-PAを用いた加療を行っており、その症例数は常に県内では上位に位置しています。

##### ・ボツリヌス局所療法

眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸に対しての局所注射療法

短時間で、外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行。年間50人から70人ほど施行。

研修医にも研修中に資格取得してもらっております。

##### ・変性疾患

代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が10-15人ほど見つかри、50-60例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け入れている。

##### ・認知症

専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中。

#### ◆主疾患治療プロトコール

---

①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用

②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸：ボツリヌス局所注射療法

③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院

④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース

⑤  $\gamma$ グロブリン大量療法(IVIg療法)

⑥ 他

- ・日本内科学会認定医 1名・総合内科専門医 2名・指導医 3名
- ・日本神経学会専門医常勤 3名・指導医 3名
- ・日本脳卒中学会専門医 1名
- ・日本臨床神経生理学会認定医 2名
- ・日本脳卒中学会研修教育病院 指導医 1名
- ・ボツリヌス施行有資格者 当科4名
- ・ITB療法有資格者 当科3名
- ・日本神経学会教育施設

◆その他

---

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

スタッフ 10 人(そのうち救命センター所属 1 名、後期研修医 2 名)で消化器疾患、乳腺疾患、一般外科、外科救急を診療しています。

当科の消化器癌、乳癌診療は各種癌治療ガイドラインに準拠しながら標準的な治療を施行しています。2 名(大腸、胃)の日本内視鏡外科学会技術認定医をコアメンバーとして腹腔鏡下手術を高頻度に施行しています(食道癌、胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、腸閉塞、ヘルニア)。早期消化管癌などは消化器内科とカンファレンスを開催し治療方針を決定しています。

乳癌診療では、乳腺専門外来を週 3 回設けそのうち 1 回は三重大学乳腺外科から非常勤医の派遣を受けています。乳房温存療法、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略を実施し QOL 向上に貢献しています。さらに術前化学療法により乳房温存率を向上させています。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて原則通院で施行しており、各癌腫の術後(術前)化学療法のほか、進行再発癌に対する QOL 改善、延命を目指す治療を行っています。院内では月 1 回の化学療法安全運営会議をもち、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を行い、安全管理システムと適切な支持療法のもとに実施されています。

緩和ケアは、緩和治療医 2 名、常勤医師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名、臨床心理士 1 名にて構成される緩和ケア・チームが週 2 回の外来と院内回診を行い、精神的・肉体的・社会的緩和のための支援を行っています

小児外科分野では週 1 回、三重大学小児外科医師により小児外科専門外来が開設されており、小児医療の向上に努めています。

救急分野では救命救急センターに外科専門医である日本救急医学会救急科専門医が常勤しており、外科系患者の救急医療体制が整備されています。

◆手術症例の概要 手術内訳 平成26年1月～12月

疾患名	症例数
食道癌根治術	2
食道良性手術	2
胃十二指腸良性手術	12
胃十二指腸悪性手術	61
イレウスを除く小腸手術	33
イレウス手術	32
虫垂炎手術	63
大腸肛門悪性根治術	86
大腸良性手術	26
肛門良性手術	8
胆道良性手術	83
胆道悪性手術	4
肝切除術	14
膵良性手術	1
膵悪性腫瘍根治術	0
門脈、脾手術	2
乳癌根治術	35
乳腺良性手術	12
甲状腺手術	0
外傷手術	3
ヘルニア手術	105
その他	89
計	673

このうち腹腔鏡下手術は 319 例

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間
乳癌手術	乳房切除又はリンパ節廓清を伴う手術	術後 7 日間
	乳腺部分切除かつセンチネルリンパ節生検	術翌日退院（2泊3日）

◆その他

外科が資格を有する当院の施設基準：

日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、大腸癌研究会

## 1 心臓血管外科の診療内容

心臓とは人の胸の中にあり、収縮と拡張を規則正しく行うことで、血液を全身に送り続けている臓器です。心臓から送り出される血液によって、全身の臓器は酸素や栄養分を受け取ることができるのです。心臓から送り出される血液は酸素を十分含んだ血液(動脈血)で、動脈を通して全身の臓器に送られ、全身の細胞を養います。役目の終わった血液は静脈血として静脈を通して心臓に戻ってきます。血液にとって動脈は行き道、静脈は帰り道となります。心臓は、この血液を全身に送るために規則正しく、常に休むことなく動き続けます。1分間に約60-80回、1日におよそ10万回、1年では約4000万回、一生には約30億回も収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送り続けます。心臓は一回の収縮で約70ミリリットルの血液を送りますので、一分間で約5リットル、一日で約7000リットルの血液を全身に送り続けることとなります。人が生まれてから、心臓は休むことなく血液を送り続け、血液の通り道である動脈と静脈は、この血液の流れを受け止め続けるわけです。この心臓と血管を含めて血液を全身に送る体のシステムを総称して「循環器」と言います。この様に常時大変な仕事をしている心臓と血管「循環器」ですので、機能障害が起らないことのほうがむしろ不思議なこととさえ言えます。

最近よく耳にする「メタボリックシンドローム」と言う言葉をご存じの方は多いのではないかと思います。それは動脈硬化性疾患の危険性を高めるリスク症候群で、内臓脂肪蓄積に加え、脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖(糖尿病)を伴う病態です。いわゆる「生活習慣病」でもあり、主に生活習慣や環境・体質などによって症状もなく徐々に進んでいき、「動脈硬化」という血管の病気を通して、心臓や血管、すなわち循環器の大変な病気を引き起こしてしまいます。循環器は、人間のすべての臓器を養っている大切なシステムですので、循環器系に障害が出ることで、心臓だけでなく他の臓器例えば、脳や腎臓といった全身のあらゆる臓器の病気も引き起こしてしまうことも大きな問題とされています。循環器疾患は実に多様性に富んでおり、内科的治療のみでは対応できない病気も多いことがわかってきています。私たち、心臓血管外科ではその名の通り、心臓と血管の機能障害を外科的に治療することを専門としております。

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。循環器病の全身状態に最大限の配慮をした「体に優しい外科治療」をモットーに治療に当たっています。手術そのものが体に与える負担を医学用語で「手術侵襲」といいますが、私たちはこの手術侵襲を最小限に抑えた「低侵襲心臓手術」に取り組み、心臓から全身の血管(脳血管は除きます)まで広い範囲で診療を行っています。

病気に対する戦いは、病気に対する正しい理解から始まります。「心臓・血管がおかしいかな」と気になる方は、是非お気軽に当科までご相談ください。電子メールでのご相談や、いわゆるセカンドオピニオンに関したご相談にもお答えします。心臓血管外科・近藤宛で、当院に電子メールをお願いします。アドレスは [sogohos@mie-gmc.jp](mailto:sogohos@mie-gmc.jp) です。

私たち心臓血管外科は機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。高い安全性と洗練された質の高い心臓血管外科治療を推し進め、皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

## 2 体に優しい心臓手術

従来の心臓手術といえば、人工心肺装置(人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、心臓を止めて行うため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でした。心臓に病気を持っている人は、心臓をはじめ全身の臓器に機能障害をもっていることが多く、患者さん本人にとってはますます負担と危険性の高いいわゆる「命がけの手術」となっていました。当施設では、冠動脈バイパス手術におきましては、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「体に優しい低侵襲心臓手術＝オフポンプ手術」に早くから取り組んできました。ご高齢の方や脳梗塞・腎不全・糖尿病といった全身臓器の障害を持った患者さんにとっては特に有用な手術法です。

## 3 冠動脈バイパス手術について

心臓を養っている冠動脈という血管が動脈硬化で細く狭くなると、十分な血液が心臓に行き届かなくなり、狭心症という病気を引き起こします。さらに冠動脈が詰まると心臓の筋肉が腐ってしまう心筋梗塞という病気を引き起こします。冠動脈バイパス手術は、この冠動脈が細く狭くなったり詰まったりした部位を飛び越えて、血液の新しい通り道をつける手術のことです。古くて痛んだ狭い道路はそのままにして、新しくバイパス道路を建設して、交通の便が良くなることと同じと考えていただければご理解いただけると思います。狭心症や心筋梗塞の患者さんに対して行う手術で、心臓の手術では最も多く行われている手術です。日本では年間に約 15,000 人の人に行われています。

従来、心臓手術は人工の心臓や肺である人工心肺装置を使って、心臓を止めて行うのが常識でした。一方 2000 年頃より、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、体に対する負担を軽減し安全性を向上させるため、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」が新しい手術法として登場してきました。人工心肺装置(ポンプ)を用いないためオフポンプ手術とも言います。この手術は「体にやさしく安全性が高い」と言う大きなメリットがある一方で、心臓を止めずに動かしたまま手術を行うため、質の高い結果を得るためには、高い手術スキルはもちろんのこと、麻酔を含め洗練された手術環境・チームワークが必要です。当科では早くからこの「オフポンプ冠動脈バイパス」に取り組み、多くの実績をあげてきました。

当科では、冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術による完全血行再建を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。最近では手術適応患者さんの高齢化もあり、大動脈～頭頸部動脈の動脈硬化の強い患者さんが増え、術中脳梗塞合併の危険性が高くなっておりますが、オフポンプ手術を第一選択とした 2002 年 6 月から現在まで、術中脳梗塞はゼロを維持しております。また、自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。2010 年 5 月まで、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの 93.0%で、待機手術では 98.1%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者様に動脈グラフトを用いております。何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合は静脈グラフトを用いております。しかしこの 2-3 年は重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

#### 4 心臓弁膜症の手術について

心臓は、4つの部屋、左心房・左心室・右心房・右心室を持っています。左右の心室は血液を勢いよく送り出すために、入口と出口には弁と呼ばれるものがついており、血液の流れが一方向に進み、戻ってこないようにする働きがあります。この弁の機能に障害を来した状態を弁膜症といいます。具体的には弁がきちんと閉まらなくて、血液が逆流してしまう「閉鎖不全症」と、弁の開きが悪くなり血液の通りが悪くなる「狭窄症」があります。中でも全身に血液を送り出す左心室の入口と出口にある弁、それぞれ僧帽弁、大動脈弁と言いますが、これらの機能障害がひどくなった場合には手術が必要となります。この弁膜症に対して、私たちは、弁病変の形や心臓の機能・患者さんの状態に応じて、一人一人の患者さんに最も適切な手術法を選択し提供いたします。

僧帽弁疾患では、自己弁を温存する形成術を第一選択とし、さらに心房細動を有する患者さんでは、積極的に不整脈手術(MAZE 手術)を追加し、抗凝固不要を目指しております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈弁疾患では、人工弁置換術が基本となります。術後抗凝固が不要な生体弁を用いるか、半永久的な耐久の機械弁を用いるかは、患者さんの年齢、合併疾患の有無等を考慮し、患者さんと相談の上決定しております。

#### 5 大動脈疾患の手術について

大動脈とは全身へ血液を送る最も太い動脈です。心臓から出て頭の方へ向かい、胸の上でUターンして胸の中を下半身へ向かって走行します。そして、横隔膜を貫通しお腹にはいり、お臍(へそ)の下あたりで左右の脚(あし)に向かうように分岐します。手術が必要になる大動脈の病気の中で、最も多いのが大動脈瘤です。大動脈瘤とは読んで字の如く大動脈が「瘤(こぶ)」状に徐々に膨らむ病気です。これは、動脈硬化+高血圧症が主な原因です。動脈硬化を促進する因子=高血圧症、糖尿病、高脂血症(高コレステロール血症)、喫煙、肥満等をお持ちの方は、持っていない人に比べ、大動脈瘤になる危険性が高くなります。

多くは無症状で、いつの間にか大きくなり、他の疾患の精査で偶然発見されることが多いです。腹部大動脈瘤の場合は、お腹を触った時に、偶然に脈を打っている腫瘤として発見されることもあります。なかには、ご自身で拍動する腫瘤として自覚していても、痛くも何ともないので放置していて、たまたま医師に相談して発見されるというケースもあります。

また、肥満の方(お腹がぼっちゃりしている方)では大きくなっていても、触診で全く拍動がわからないことも多いです。胸部大動脈瘤は外から触ってわかることはありません。大動脈瘤が破裂するような大きさになるのには数年以上かかりますが、症状が出ないため見つかりにくいという難点があります。つまり、破裂しない限りはっきりとした症状は認めません。しかし、一旦、破裂すると痛みと同時に体内に大出血を起こすため、出血性ショックとなります。破裂した場合は、救急車で病院にたどり着く前に絶命する可能性が高い病気です。

手術は、大動脈瘤を切除し人工血管に置き換える(置換する)人工血管置換術が一般的で確実です。最近では大動脈瘤のある部位の大動脈内にカテーテルを用いてステントグラフトというパイプを留置し、膨らんだ部位への血流を遮断して破裂を防ぐ治療法もあります。しかし、大動脈瘤の位置や形態で適応される症例は限られます。また腹部大動脈瘤では手

術自体が危険と考えられる高齢者や重い合併疾患のある方が基本的な適応となります。確実に耐久性に優れているのは手術による人工血管置換です。尚、現時点ではステント治療は限られた施設でしか行えず、当院では行えませんので、適応症例は紹介しております。

動脈硬化が原因で起こる大動脈瘤症例では、全身の他の動脈にも病変がある場合が少なくありません。脳梗塞の原因となる脳動脈硬化症・頸動脈狭窄症、心臓を養う冠動脈の硬化が原因の心筋梗塞・狭心症、下肢の血行障害となる閉塞性動脈硬化症などを合併します。当院では大動脈瘤の待機手術の患者様全例に、上記合併疾患の有無とその治療の必要性を評価し、安全な手術治療が行えるようにしております。実際、胸部大動脈瘤手術と冠動脈バイパス術を同時に行った患者さんや、冠動脈バイパス術を行ってから腹部大動脈瘤の手術や下肢の血行再建術を行った患者さんも多数おみえです。

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂では、救命には手術治療が不可避であり、可能な限り緊急対応しております。

## 6 末梢動脈疾患の手術について

下肢の血行障害に対する手術を行っています。最も多い病気は、両脚へ血液を送る動脈が動脈硬化で徐々に狭くなり、ひどい場合は詰まってしまい、下肢への血流が不十分になる病気で、閉塞性動脈硬化症と言います。足が冷える、歩くとふくらはぎが張って痛くなり、休まないと歩けないという症状(間欠性跛行と言います)が典型的です。さらにひどくなると足先が壊死に陥る場合もあります。喫煙は症状を悪化させる大きな要因で、まずは禁煙することが重要です。

手術は血行再建術で、自家静脈グラフトまたは人工血管を用いてのバイパス術を行います。血行障害がなくなると、足は温かくなり、歩行障害もなくなります。

## 7 静脈疾患の手術について

静脈は体の端から心臓に血液が戻る帰り道です。人が立った状態では、下肢の静脈血は重力に反して上へ上へと流れなければなりません。そのため静脈には逆流しないように弁が付いていますが、この弁が壊れてしまい、静脈血がうっ滞して下肢の静脈が腫れる病気を下肢静脈瘤と言います。特に立ち仕事をしている方では、時間が経つにつれ(夕方になると)脚がだるくなり、むくみがひどくなり、痛みを伴うこともあります。ひどい場合はうっ血により足首近くに色素沈着や潰瘍形成を来す場合もあります。

軽症の場合は弾力ストッキング着用をお勧めしております。当科外来では脚のサイズ(太さ)を測定し、ストッキングの適切なサイズの指導をしております。

中等症以上の方や見た目が軽症の方でも症状が強い方は手術治療を行っております。女性の場合、美容的な観点から手術を希望される場合もあります。手術は原因となる静脈の抜去を基本術式としており、ひどい静脈瘤はそのものも切除して再発を予防しております。尚、当院ではレーザー治療は行っておりません。

## 8 無輸血手術について

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の時の輸血は自分の血液でまかなうという「自己血輸血」を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として 800ml の自己血を貯

めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者様の多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

以上、私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。地域の皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日 )

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	31	20.3	(15.7)
弁膜症・先天性心疾患等	25	24.0	(17.8)
大動脈疾患(胸部)	11	23.3	(21.1)
大動脈疾患(腹部)	14	19.3	(13.5)
末梢動脈疾患	13	11.3	(9.1)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均 13.8 日でありました。

◆ 主疾患の治療成績 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

1) 単独冠動脈バイパス術：29 例

- ・ off pump 手術：29 例 (100%)
- ・ on pump 手術：0 例
- ・ 平均バイパス本数：2.97 本/人
- ・ 緊急手術：6 例
- ・ グラフト開存率：95.3%
- ・ 入院死亡：1 例

2) 大動脈瘤手術：25 例

- ・ 胸部：11 例 (急性解離 7、破裂 1)  
入院死亡：2 例 (急性解離 1)
- ・ 腹部：14 例 (破裂 1)  
入院死亡：0 例

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。当科では、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

これらの中で、最も多く行われる肺癌の手術は、日本では1年間に約26000人に行われています。肺癌の標準手術は病巣のある肺葉（人間の肺は、右は3つの肺葉、左は2つの肺葉に分かれています）と病巣の転移経路であるリンパ節を切除することです。手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、傷がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術は傷が小さく痛みが少ない利点がある半面、出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm前後の皮膚切開で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い2009年から創のサイズを縮小。5~10cmの小切開と胸腔鏡を併用したいわゆる胸腔鏡補助下手術(Hybrid手術)を開始しました。

一方で、近年、CT等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なれば少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも2cm以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

気胸の手術は、日本では1年間に約12,000人に行われています。当科では胸腔鏡手術により痛みを和らげ早期の社会復帰ができるように努めております。

炎症性肺疾患、膿胸等に対する手術は、患者さんのQOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

前述の如く当科では、呼吸器外科のあらゆる疾患に対する手術に対応しています。総合病院の特徴を最大限に利用し、他科との協力のもと、進行肺癌に対する拡大手術や合併症を有する患者さんに対する手術も積極的に行っています。さらに呼吸器内科と密に連携して初診から手術までの期間を短縮するよう努め、肺癌や悪性中皮腫に対する集学的治療（手術、化学療法＝抗癌剤治療、放射線治療等を併用して行う治療）も積極的に行っています。

以上、私たち呼吸器外科は、地域の皆様の健康に貢献できますよう努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

---

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)
肺癌(原発性+転移性)	56	11.1 ( 8.8)
肺癌・気胸以外の呼吸器疾患	33	19.6 (13.6)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	5	6.8 ( 4.8)
気胸	25	11.5 ( 5.5)

◆ 主疾患の治療成績 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

---

- 1) 原発性肺癌手術：46 例
  - ・胸腔鏡下手術：40 例 (87.0%)
  - ・治癒切除：41 例 (89.1%)
  - ・非治癒切除：5 例 (10.9%)
  - ・入院死亡：0 例 ( 0.0%)
- 2) 他の呼吸器外科疾患手術：73 例
  - ・入院死亡：2 例 (多発交通外傷 2)

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患に対する迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）を中心に治療を行っています。

最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PA の急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきています。また、専門外来として「脊椎・脊髄外来」を開いており、外傷も含めた脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えていきます。

◆入院疾患の概要

---

症例・手術	件数
手術総数	294 件
脳動脈瘤	35 件
脳腫瘍	21 件
脊椎脊髄	82 件

◆その他

---

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者の方に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっています。

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。また、小児科医師数は北勢地区の病院の小児科では最大人数を確保しています。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら公立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

#### ◆ 周産期母子センター（3階東病棟）

本院開院時に、県内で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来にて発達のフォローを行っております。昨年より周産期棟の増改築を行い、現在NICU 6床、GCU 12床の計18床にて運用しており、需要に応じ9床+18床までの増床が可能です。

#### ◆ 小児科病棟（3階西病棟）

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

#### ◆ 外来診療

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

#### ◆ 救急外来

当院は、本来2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。

特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

#### ◆ 平成26年度診療実績

一般小児科病棟入院患者数：1,224人

一般小児科外来患者数：14,196人

時間外、救急外来患者数：1,889人

NICU+GCUの入院患者数：265人

うち超低出生体重児：5人

極低出生体重児：10人

## 産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、地域がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

### ◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
産科手術	168 例	帝王切開 142 例、頸管縫縮 3 例、流産ほか 23 例
ハイリスク分娩	42 例	全分娩数 371 例
婦人科手術	641 例	腹腔鏡手術を含む
内視鏡手術	411 例	(腹腔鏡 342 例、子宮鏡 69 例)
全手術件数	809 例	

### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

子宮頸部悪性腫瘍	34 例（上皮内癌を含む）
子宮体部悪性腫瘍	25 例（開腹手術 8 例、先進医療：腹腔鏡手術 17 例）
卵巣悪性腫瘍	38 例（開腹 37 例 腹腔鏡 1 例）
その他婦人科悪性腫瘍	5 例（肉腫 3 例 卵管癌 1 例 腹膜癌 1 例）

### ◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

婦人科癌化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、3 週 1 回投与を基準に、外来化学療法を積極的にを行っています。

腹腔鏡手術 平成 19 年から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的にを行っています。

### ◆手術実績

腹式単純子宮全摘術	44 例	腹式良性卵巣腫瘍手術	19 例
膣式単純子宮全摘術	16 例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	37 例
準広汎子宮全摘術	3 例	腹式子宮外妊娠手術	5 例
広汎子宮全摘術	7 例	円錐切除術	45 例
腹腔鏡手術	342 例	子宮鏡下手術	69 例

### ◆その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行います。

平成 27 年からは先進医療（腹腔鏡下子宮頸癌根治手術）を実施できるようになりました。

平成 25 年 4 月から NICU（新生児）棟が完工・オープンしました。また、MFIC を平成 26 年に開設しました。

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しています。

#### ◆治療の実際

---

##### 骨折

骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療効果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

##### 変形性関節症

高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では、専用の無菌室（クリーンルーム）での人工関節手術（年間 97 例）や人工関節を用いない骨切り術（年間 12 例）を中心に組み合わせており、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

##### スポーツ外科

膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間 251 例、自家腱移植による靭帯形成術、関節授動術は、年間 26 例となっております。

##### 軟骨損傷

軟骨損傷に対しては自家骨軟骨柱移植術や microfracture 法を積極的に行ってまいりましたが、平成 25 年 8 月に他施設に先がけ、保健医療での培養軟骨移植術の三重県最初の施設認定を受け、再生医療を開始致しました。平成 26 年は 2 例となっております。通算 8 例は現在症例数全国 2 位です。これにより損傷の面積や深度に応じたそれぞれの患者さんに最適な治療法を選択することが可能になりました。

#### ◆主疾患治療プロトコール

---

人工股関節置換術：術後 4～6 週間にて退院

人工膝関節置換術：術後 3 週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後 2 週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後 2 週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：最短で 3 泊 4 日にて退院（6 泊 7 日もあり）

前十字靭帯再建術：術後 2 週間にて退院

#### ◆その他

---

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、症状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。

当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。

また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げております。

## ＞ 皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が診療を行っています。外来は、月曜日は、大学よりの非常勤医師が、火から金曜日は常勤医師が診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している褥瘡の治療、予防ケアなどにも力を入れています。

### ◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	6	
湿疹・皮膚炎	4	
熱傷	4	
水疱症	2	
褥瘡	12	
その他	1	

入院患者 29 件/年

### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

外科的処置・治療領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 136 件/年（皮膚生検・外来小手術 61 件、手術室手術 75 件）

表皮嚢腫 53 件、母斑 8 件、疣贅 3 件、脂肪腫 3 件、線維腫 3 件、皮膚癌（上皮内癌）10 件など

### ◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7 日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10 日間

褥瘡パス入院 8～10 日間など

平成25年1月から、当センター眼科の外来診療を開始しました。月曜日から金曜日までの午前の一般診療、月、水、木、金曜日の午後の予約診療を行っております。平成26年1月からは最新のパターンスキャンレーザー装置を導入します。

**角結膜疾患：**点眼治療のみでなく、塗抹鏡検・培養・血清点眼等の特殊検査および治療にも対応します。

**緑内障：**光干渉断層計（OCT）と精密視野検査による綿密な病期判定を行なったうえで点眼薬・内服薬・レーザーによる治療を行ないます。

**糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患・網膜裂孔：**レーザー治療を中心に対応します。

**ブドウ膜炎・視神経炎：**点眼、内服治療が主ですが、入院による薬剤点滴治療にも対応します。

平成25年7月1日、日本眼科学会専門医制度研修施設の認定を受けました。

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。

診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。

なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

◆平成26年診療実績

---

外来延患者数	3,897人
一日平均外来患者数	16.3人

CT, MRI, 血管造影、IVR (interventional Radiology), 核医学検査の施行と画像診断を行っています。放射線治療では、LINAC(直線加速器)を使用した治療を行っています。四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの画像診断を行うと共に、院内では中央放射線部門の一員として、各臨床科との密接な連携の元に診療を行っています。

◆入院疾患の概要 (当科は入院病床を持っていません)

◆主疾患 (悪性疾患) を含む治療成績

1 放射線治療患者の内訳 (平成 26 年)

新規登録患者数	138 例 (新規患者数)	166 例(治療患者総数)
Radical (治癒目的の照射)	24 例	26 例
Palliation (緩和的照射)	38 例	62 例
Post-op (術後照射)	75 例	77 例
Pre-op (術前照射)	1 例	1 例

2 疾患 (部位) 別症例数

脳	頭頸部	肺	乳腺	食道	肝・胃	大腸・直腸	腎膀胱	婦人科	骨軟部	不明
5 例	0 例	46 例	68 例	6 例	2 例	1 例	6 例	4 例	0 例	0 例
4%	0%	33%	49%	4%	1%	1%	4%	3%	0%	0%

当院の放射線治療の特徴は、肺癌・乳癌で全体の約 82%を占めます。頭頸部腫瘍や前立腺癌・子宮癌は比較的少ないです。肺癌では呼吸器内科主導で化学療法を併用した放射線治療が行われています。乳癌では、当院外科を中心に、近隣の病院からの依頼を含め、乳房温存術後の照射が多いです。当院で不可能な放射線治療 (IMRT、定位照射、小線源治療) が必要な場合は可能な施設に紹介しています。

## ➤ 麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。  
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

### ◆平成 26 年診療実績

---

手術症例数

全手術症例数：3, 017 件

うち麻酔科管理症例数：1, 763 件

麻酔法	件数
全身麻酔	864
全身麻酔+硬膜外麻酔	700
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	197
緊急手術	271

### ◆その他

---

全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

## (2) 看護部

### ◆ 看護部の理念

---

1. 患者さんが満足できる医療が受けられるよう、安全で質の高い看護を実践し、地域から信頼を得ます
2. 看護師の資質（豊かな人間性、科学的根拠に基づいた知識と技術）を向上し、看護師個々のキャリアアップと定着をめざします

### ◆ 平成 26 年度看護部目標

---

1. 患者さん・ご家族の皆様の声を大切にし、安心・安全な看護を提供し、選ばれる病院を目指します
2. 他職種と協働しチーム医療に貢献します
3. 経済性・効率性を考慮して改善に努めます

### ◆ 平成 26 年度看護部実践報告

---

#### 1. 看護職員の確保

##### 1) 就職説明会

- (1) 院内就職説明会の開催（5月、6月、7月） 69名参加
- (2) 外部の説明会への参加
  - ・県立看護大学就職説明会（5月）・オープンキャンパス（7月）
  - ・ナースセンター主催 看護職就職相談会（8月、10月）
  - ・ナース専科主催 合同説明会名古屋（2月）
  - ・マイナビ主催 看護セミナー名古屋（2月）
  - ・ディスコ主催 看護ナビフォーラム名古屋（3月）

##### 2) 看護大学・学校訪問

- (1) 実習校 5校訪問
- (2) 県内高校、県外大学訪問
  - ・総務課担当 県内高校 17校、県外大学 2校

##### 3) 広報活動

- ・就職説明会、採用試験、インターンシップポスター作成
- ・ナース専科、ディスコのWeb（就職ナビ）登録
- ・ホームページの画面の適宜更新
- ・修学資金案内（2月県内外 95校）
- ・就職説明会案内（3月 72名）
- ・年賀状郵送（12月）
- ・DVD作成

##### 4) インターンシップ開催（6月、7月、12月、3月） 46名参加

##### 5) 採用試験

- ・定期試験 2回（8月、9月）+ 随時試験 4回

6) 採用内定者への対応

- ・国家試験対策（11月）34名参加
- ・国家試験応援メッセージカード、年賀状郵送
- ・内定者のつどい（3月）

7) 実習環境の充実

- ・実習指導者の育成（三重県看護協会実習指導者講習会に2名が参加し修了）
- ・実習備品の整備（実習用パソコン・水温計・ピッチャー、経皮酸素濃度モニター、ワゴンなどの追加設置）
- ・更衣室の整備

2. 職場環境の改善と活性化

1) 変則3交代勤務を平成26年4月1日より本格実施

- ・現行の勤務パターンに次のパターンを加える

長日勤	8：30～21：30（or 21：45）
夜勤	20：00～9：30（or 9：45）

2) WLB委員会の取り組みについて

- ・委員会から副師長会小グループへ
- ・新人研修での制度説明会の実施（4月）
- ・産休育休者のための交流会実施（11月）
- ・インデックス調査結果のフィードバック
- ・キャリアの窓口設置（11月～）
- ・各部署で長日勤の業務負担軽減のための取り組み

3) 看護支援室の活動

●新人看護職員技術等の支援

H26年度 ひよっこクラブ出席状況（人数）

	4月15日	4月23日	5月7日	5月16日	6月5日	6月18日	6月18日
合計	28	22	6	17	5	0	0

ひよっこクラブ実施技術内容

研修実施日	実施技術内容
4月15日	採血
4月23日	採血 滴下数調整 ルートの組みかた 吸痰 酸素ボンベの取り扱い 筋肉注射 薬液の準備
5月7日	十二誘導 採血
5月16日	採血 滴下数調整 ルートの組みかた 膀胱留置カテーテル挿入 電子カルテ入力
6月5日	輸液ポンプの使用法

#### 4) 業務改善活動

##### (1) TQM活動

・院内TQM発表会 14題 内、看護部 13題

(2) 活動報告会を行い、各セクション、委員会、認定看護師の活動内容を共有した。

#### 3. 人材育成

##### 1) BSCシートを活用した目標管理

看護部の目標を実現するために、どのような取組みが効果的か作戦を練り、部署全体で理解・共通させる道具（BSCシート）を用いている。

院長シートに基づいて看護部長シートを作成。看護部長シートに基づき、看護師長、認定看護師がそれぞれBSCシートを、スタッフは師長のBSCシートに基づき私の目標シートを作成した。

看護部長と看護師長・副師長の部署面談や、看護師長・副師長と看護師の個人面談を年3回行った。

##### 2) キャリアラダーによる教育

・態度・対話のほかに、ステップ別教育として、実践・教育・管理・研究を柱として段階的に研修した。

・認定看護師を講師とした専門教育は、がん看護、摂食・嚥下障害看護、スキンケアの分野において、全課程の修了者に修了書及び認定シールを発行した。

・看護研究は遠隔配信授業を年間8回受信し、看護研究の基礎的な学習を行った。

・平成27年度に向けて、キャリアラダーの見直し、マネジメントラダーの作成、助産師ラダーの作成を行った。

##### 3) 新人看護師育成

新人看護職員研修要綱を見直し検討しながら、フォローアップ研修では演習を多く取り入れた。多重課題シミュレーションやローテーション研修を行い、実践的な研修を行った。

##### 4) 看護師長研修の実施

・新任師長、副師長研修として、年間6回の管理研修を行った。

・師長・副師長対象合同研修を1回、師長対象研修を2回、副師長対象研修を1回開催した。

・三重県看護協会のファーストレベル研修を5名が、セカンドレベル研修を1名が受講し修了した。

##### 5) 地域医療への貢献

研修名	参加人数
看護研究遠隔授業：7回開催	80
がん看護（初級）：4回開催	18
がん看護（中級）：3回開催	27
がん看護（上級）：3回開催	6

スキンケア（初級）：1回開催	18
スキンケア（中級）：2回開催	41
スキンケア（上級）：1回開催	3
摂食・嚥下障害看護（初級）：1回開催	25
摂食・嚥下障害看護（中級）：2回開催	2
がん化学療法サポータティブケア：11回開催	55
健康講座（遠隔）2回開催	4
合計	279

## 6) 学生実習の受け入れ

### (1) 看護学生実習受け入れ状況（延べ人数）

学校名	人数
三重県立看護大学	1692
四日市看護医療大学	492
三重県立桑名高校専攻科	557
四日市医師会看護専門学校	1330
聖十字看護専門学校	67
弥富看護専門学校	48
合計	4186

### (2) 看護職員研修受け入れ状況（延べ人数）

新人看護職員他施設受け入れ研修 年間6回開催 2名

### (3) 高校生一日看護師体験受け入れ

#### ① 三重県健康福祉部・看護協会主催

日時：7月31日 8:30～16:00

対象：四日市市内4高校、27名の高校生（1～3学年）

内容：バイタルサイン測定、清潔援助、沐浴、授乳、オムツ交換、散歩、院内見学等

#### ② 川越高校生徒の看護体験受け入れ

日時：8月13日 9:00～12:00・9月23日 10:00～11:00

対象：川越高校、7名の高校生（1～3学年）

内容：バイタルサイン測定、手浴、一時救命処置、AEDの使用方法、先輩看護師へのインタビュー等

### (4) 中学生の職場体験受け入れ

6月と10月に各3日間、四日市市立笹川中学と西笹川中学から中学2年生各3名を受け入れた。内容は、バイタルサイン測定、清潔援助、移送介助、院内見学等。

### (3) 中央放射線部

【平成26年 総患者数】

平成26年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均/月	累計
一般撮影 (含ポータブル)	3,305	2,964	3,150	3,190	3,088	3,025	3,156	2,830	3,109	3,343	3,034	3,389	3,131.92	37,583
透視	136	123	138	134	120	132	140	122	159	182	138	169	141.08	1,693
血管造影 心臓	46	49	50	53	56	56	53	42	43	39	50	48	48.75	585
頭腹部	16	23	15	25	17	12	22	19	16	21	10	11	17.25	207
放射線治療 新規	29	12	20	3	11	19	18	14	13	21	14	5	14.92	179
照射数	360	471	374	325	129	392	357	351	350	346	377	216	338.17	4,058
(LG)	30	16	23	6	14	22	23	19	18	24	15	6	18.00	216
CT 単検	1,387	1,257	1,395	1,310	1,312	1,296	1,348	1,318	1,323	1,436	1,362	1,602	1,362.17	16,348
造影	231	199	228	215	211	224	226	193	208	274	221	226	221.33	2,656
CT (治療)	25	11	20	3	13	23	17	15	10	16	12	6	14.25	171
(病診連携)	54	45	58	49	60	57	80	55	54	65	72	83	59.33	712
RI	71	87	84	97	73	98	90	87	86	98	85	101	87.92	1,055
(病診連携)	1		1	1	1	1	5	3	3	2	2	3	2.09	23
MRI (1.5T) 単検	299	299	322	369	336	344	375	339	310	358	300	317	330.67	3,988
造影	98	92	104	93	90	107	100	83	96	115	79	89	95.50	1,146
(病診連携)	38	40	42	42	46	47	50	38	40	47	39	40	42.25	507
超音波 心臓	393	359	423	359	372	384	419	398	391	416	362	377	387.75	4,653
腹部	277	256	272	318	323	338	375	340	319	330	314	340	316.83	3,802
血管等	255	257	236	260	232	243	285	230	248	284	233	250	249.42	2,993
(病診連携)	10	3	7	8	6	9	11	8	1	16	10	6	7.92	95
コピー (CD, DVD, Film)	254	232	271	281	245	253	264	253	274	279	230	289	260.42	3,125
取込み	197	183	220	210	200	219	270	205	299	303	197	247	229.17	2,750
合計	7,409	6,890	7,345	7,251	6,842	7,187	7,548	6,858	7,272	7,863	7,033	7,688	7,266	87,186

	4~6	7~9	10~12	1~3	総計
病診連携/CT	4.53	4.49	5.00	4.57	4.65
病診連携/RI	0.83	1.12	4.18	2.48	2.15
病診連携/MRI	9.88	10.08	9.67	10.02	9.91
病診連携/US	0.73	0.81	0.67	1.11	0.83

#### (4) 中央検査部

##### ◆中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	草野五男(検査部長) ・ 廣森真哉(検査技師長)
認定資格	細胞検査士1名 ・ 輸血認定技師1名 ・ 二級臨床検査士(微生物学)1名 NST療養士2名 ・ 神経生理認定技術師1名・医療機器情報コミュニケーター1名 超音波検査士(循環器)1名・臨床工学技士2名・糖尿病療養指導士名3名
常勤技師	22名
業務補助職員	4名

##### ◆外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
6月	日本臨床検査技師会精度管理調査	日本臨床検査技師会
8月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9月	臨床検査精度管理調査	日本医師会

##### ◆施設認定

- ・日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認定
- ・日本臨床細胞学会施設認定
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設認定

##### ◆診療支援

支援	内容
感染症レポート	週報、月報
病棟採血管準備	毎日(各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日(1時間早出)
外来迅速検査報告	24時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

##### ◆病診連携検査件数

トレッドミル	11
ホルター心電図	2
脳波	27
ABI	6
神経生理検査	17
計	63

##### ◆検査件数

H26	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
検体	100,126	92,959	102,299	101,407	98,910	97,698	104,486	98,488	101,857	107,609	95,590	102,507	1,201,936
細菌	1,860	1,996	1,825	2,050	1,952	2,006	2,039	1,969	2,215	2,215	2,226	2,300	24,653
病理	853	824	921	992	844	999	1,050	976	989	1,178	987	1,010	11,823
生理	2,043	1,857	2,074	2,178	2,305	2,054	2,398	1,982	2,145	2,197	1,993	2,221	25,447
合計	104,882	97,636	107,119	106,627	102,011	102,757	109,973	103,415	107,206	113,199	100,796	108,038	1,263,659

(5) 薬剤部

◆ 投票等に関わる収入

単位：千円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投票収入	20,372	21,877	23,148	25,448	25,348	22,020	28,076	22,555	21,923	25,075	23,204	29,148
調剤料収入	182	182	189	146	143	136	155	150	152	164	166	177
調剤技術基本料収入	94	98	90	78	79	76	80	73	78	83	79	94

◆ 薬剤管理指導等の件数

単位：件

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	269	232	182	119	172	226	293	338	214	242	162	232
薬剤情報提供料算定件数	1118	988	1052	910	980	863	989	925	906	918	899	1,104

◆ 診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形外科	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	111	415	76	175	659	391	151	308	277	78	74	244	2	204	755	545	581	8	5,054
2月	58	365	60	177	583	342	132	302	234	69	50	220	3	180	687	560	528	3	4,553
3月	70	389	77	207	671	428	148	300	278	83	72	241	2	174	754	512	535	4	4,945
4月	92	459	60	177	640	441	170	350	249	87	43	248	1	199	814	566	585	4	5,185
5月	149	413	74	155	731	351	191	351	253	75	67	252	0	180	770	516	590	9	5,137
6月	67	425	50	181	594	372	142	334	287	83	68	230	0	187	733	564	534	8	4,849
7月	95	452	71	167	595	440	149	415	278	85	58	271	2	232	763	520	581	4	5,178
8月	116	384	63	174	548	371	134	364	281	100	54	229	1	190	630	507	526	10	4,882
9月	97	413	67	173	511	449	131	336	294	86	131	259	1	172	674	532	539	8	4,873
10月	87	414	62	190	599	450	149	250	291	79	179	253	2	223	743	584	560	9	5,124
11月	79	360	63	171	589	403	157	318	269	79	194	203	1	180	631	496	508	4	4,705
12月	151	389	56	182	751	434	161	330	357	102	221	229	1	177	696	584	529	6	5,356
	1,172	4,878	779	2,129	7,471	4,872	1,815	3,958	3,348	1,006	1,201	2,879	16	2,308	8,650	6,486	6,596	77	59,641

全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形外科	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	407	520	78	190	845	470	216	344	298	85	75	335	2	242	807	657	634	13	6,216
2月	296	459	62	194	740	409	180	340	248	74	53	305	6	206	725	669	592	8	5,566
3月	330	485	82	215	848	490	201	340	294	89	74	334	4	210	802	623	609	11	6,041
4月	274	546	65	195	771	521	206	397	267	91	46	343	6	224	854	647	663	8	6,124
5月	357	511	79	171	896	413	233	393	272	80	69	351	0	224	815	610	665	13	6,152
6月	235	521	52	193	718	435	186	381	309	88	61	318	3	209	767	643	625	15	5,759
7月	284	543	74	178	745	503	205	479	298	99	59	370	5	258	809	622	684	5	6,218
8月	321	488	65	179	675	449	174	408	295	107	60	314	4	217	667	591	618	11	5,641
9月	274	511	72	187	641	529	180	381	310	95	134	353	3	193	718	612	629	13	5,835
10月	247	529	65	208	724	547	189	280	320	84	187	330	3	249	791	689	651	13	6,106
11月	266	459	65	181	748	471	209	353	288	89	197	274	1	202	666	589	567	5	5,630
12月	424	540	59	189	954	517	209	365	381	113	227	298	1	202	738	669	608	8	6,500
	3,715	6,112	818	2,280	9,305	5,754	2,388	4,461	3,578	1,094	1,242	3,925	38	2,634	9,159	7,621	7,541	123	71,788

◆ 院外処方率

単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	81.3	81.8	81.9	84.7	83.5	84.2	83.3	83.0	83.5	83.9	83.6	82.4

(6) 栄養管理室

◆平成26年 年間栄養指導件数

	入院 外来 合計	個別指導			集団指導		
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	人数 (名)	母親 教室	減塩 教室
1月	76	64	29	35	12	12	
2月	75	65	41	24	10	10	
3月	75	70	40	30	5	5	
4月	69	57	33	24	12	12	
5月	84	71	45	26	13	13	
6月	67	61	27	34	6	6	
7月	74	66	37	29	8	8	
8月	75	64	40	24	11	11	
9月	67	56	34	22	11	11	
10月	89	76	45	31	13	13	
11月	71	60	37	23	11	11	
12月	67	55	38	17	12	12	
合計	889	765	446	319	124	124	0

◆平成26年 栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	5	4	5	1	3	3	2	1	4	2	5	6	41
高血圧症	4	4	10	2	6	3	7	4	1	8	8	5	62
心臓病	13	12	14	14	10	7	16	18	14	14	11	16	159
肝臓病	1	2	0	0	1	3	1	1	2	3	3	0	17
糖尿病	13	15	14	21	24	19	20	18	9	16	12	7	188
潰瘍	0	1	1	2	1	0	0	2	0	0	1	2	10
膵臓病	0	2	2	3	3	0	0	1	0	1	0	0	12
脂質異常症	8	6	8	4	7	6	3	3	8	3	3	3	62
肥満症	7	3	3	2	5	9	4	3	3	8	4	4	55
妊娠中毒症	4	1	2	1	0	7	1	2	2	7	3	3	33
炎症性腸疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
貧血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	9	14	11	7	11	4	12	11	13	14	9	9	124
合計	64	65	70	57	71	61	66	64	56	76	60	55	765

◆平成26年 給食食数実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	10,708	10,098	11,749	11,192	10,325	10,308	11,610	10,811	10,122	11,023	10,408	11,163
常食	7,767	7,753	8,427	7,850	7,684	7,824	9,030	8,487	8,168	8,428	7,888	8,216
献食	2,828	2,221	3,189	3,260	2,539	2,295	2,411	2,200	1,810	2,377	2,385	2,800
流動食	111	124	133	82	102	189	169	124	144	218	155	147
特別給食	10,331	10,621	10,429	10,285	9,245	9,119	9,792	9,882	8,908	9,299	10,250	10,504
加算食	6,370	6,836	6,242	6,375	5,817	5,206	6,516	5,703	5,364	5,154	5,075	5,612
非加算食	3,961	3,785	4,187	3,910	3,428	3,913	3,636	4,189	3,542	4,145	5,175	4,774
腎臓食	214	155	58	297	149	209	129	238	170	49	358	282
腸腎食	81	236	130	59	38	45	15	78	36	43	62	171
透析食	110	95	188	30	12	31	7	16	6	16	0	25
腎臓食等・透析食	4	67	50	34	15	13	24	93	153	92	127	118
減塩食	2,641	2,407	2,500	2,476	2,194	1,959	2,483	2,585	1,560	1,573	1,902	2,482
肝臓食	171	242	190	299	235	296	259	371	532	543	201	145
EC食	2,019	2,163	1,940	1,967	2,253	1,672	1,829	1,110	1,500	1,656	1,258	1,445
口質異常症食	88	44	4	50	16	0	60	71	73	5	32	0
貧血食	230	412	236	288	99	166	121	181	262	102	161	214
脂肪制限食	335	343	294	342	361	280	295	426	335	393	332	257
減糖食	6	67	18	18	7	5	11	39	79	11	50	24
急性性腸炎食	0	0	0	24	0	0	0	0	28	0	0	8
濃厚流動食	1,253	1,089	1,204	1,153	988	1,105	1,342	1,663	1,084	1,196	1,908	1,798
術後食	471	605	634	515	418	530	923	495	630	671	592	461
腸消化食	163	90	222	210	175	56	132	62	75	113	196	170
低残渣食	81	221	163	214	232	334	161	423	287	332	261	294
離乳食	141	180	105	191	188	224	159	78	211	270	191	300
咽下困難食	1,536	1,461	1,667	1,370	965	1,322	1,025	1,228	1,357	1,446	1,773	1,641
検査食	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
その他	689	627	688	634	762	756	699	617	414	670	732	571
ミルク	118	107	118	114	118	114	118	118	114	118	114	118
合計	10,331	10,621	10,429	10,285	9,245	9,119	9,792	9,892	8,906	9,299	10,250	10,504

※2月分、一般食の総合計10101を10098に訂正。  
 ※4月分、一般食と特別食が24ずつ入れ替わり。

## (8) 医療安全管理部

### 【医療安全対策室】

#### ◆ 平成26年度のインシデント・アクシデントについて

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。

○平成26年度の総数は1,517件となり、内訳は以下のとおりです。

インシデント（ヒヤリ・ハット）報告：計1,511件

アクシデント報告：計6件

レベル1：4件

生活にほとんど影響しない軽度な後遺症が残った場合

当初必要でなかった治療や処置が必要となり、入院日数又は外来通院の増加が必要になった場合

レベル2：1件

一時的に生命徴候に重大な影響を与え、治療を要したが回復した場合や生活に影響する中程度の後遺症が残った場合

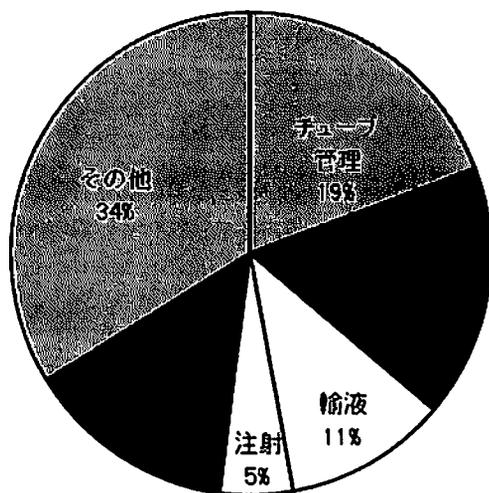
レベル3：0件

生活に影響する高度の後遺症が残った場合及び患者の治療経過に重大な影響を与えた場合

レベル4：1件

死亡した場合

#### 分野別報告件数の内訳



#### 【注】

チューブ管理：点滴時のチューブの閉塞や抜去

与薬：薬の量や種類、手渡し間違い

輸液：点滴速度、点滴時間の間違い

注射：注射量、注射時間の間違い

転倒・転落：歩行時、排泄時の転倒やベッドからの転落

その他：機械類操作、内視鏡以外の検査・処置、食事等

#### ◆ 平成26年度に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成26年度に実施した主な対策・取組みは次のとおりです。

- \* 医療安全マニュアルの改訂
- \* フルネーム確認（患者誤認防止）の実施
- \* 自殺企図の患者対策

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

#### ◆ 研修会の実施について

毎年2回、職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

平成26年度第1回目の研修は11月に「医療安全管理講演会」を実施しました。当院の顧問弁護士により、これからの医療安全管理と医療事故調査制度の発足に向けての講演を行っていただき医療事故防止対策等の周知と意識向上を図りました。

第2回目は2月に接遇・医療安全研修を実施しました。守秘義務違反、指差し呼称に関して院内スタッフによる寸劇を行い、守秘義務に対する問題意識や指差し呼称の必要性を認識してもらいました。

第1回 平成26年11月28日

研修名 これからの医療安全管理と事故調査制度の発足に向けて

講師 河内法律事務所 河内尚明弁護士

第2回 平成27年2月19日

研修名 接遇・医療安全研修会

出演者 看護師、検査技師、薬剤師、事務職員等

#### ◆ 院内暴力対策について

近年、患者や家族等から病院職員に対する暴言・暴力行為など、病院の運営を妨げる迷惑行為が全国の病院で問題となっています。当院では院内暴力に対し、医療安全対策室が中心となり対策に取り組んでいます。平成22年度からは警察OB職員を院内に配置し体制を強化しております。

平成26年度に医療安全対策室が報告を受けた暴力行為、迷惑行為は2件でした。そのうち、警察に1件通報しました。

## 【感染対策室】

病院には、感染症の治療のため入院される患者さんや、病気や治療の結果から感染症にかかりやすくなっている患者さんなど様々な状態にある患者さんがみえます。安全かつ適切な医療を提供するため、具体的かつ実践的に院内感染対策を実行する実務組織として、院内感染対策チーム（Infection Control Team）があり、感染対策室はその事務局を担っています。

### ◆院内感染対策チーム（ICT）構成メンバー

---

リーダー：感染対策室 室長（専従 感染管理認定看護師）

メンバー：ICD 5名（専任1名）、感染管理認定看護師（兼任）1名、薬剤師 1名、細菌検査技師 3名、事務 1名

### ◆実 績

---

#### 1. 地域支援ネットワークの構築

院内感染防止対策については、24年度診療報酬改定で大幅に増額され、同時に病院間の連携が強く求められるようになった。

当院は、感染防止対策加算1を算定する医療機関として、近隣の加算2を算定する医療機関と4回/年合同カンファレンスを開催し、加算1の連携医療機関と1回/年の相互評価を行い、お互いにフィードバックを行っている。

26年度より、三重県ではさらに関係4職種（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師）を中心に構成される「院内感染対策ネットワーク検討WG」が立ち上がり、院内感染対策の向上を目指しており、当院ICTからも薬剤師1名が参加している。今後も、三重県院内感染対策ネットワークを通して、県内医療機関の感染対策向上に努めていく。

#### 2. サーベイランス

- 1) 高度耐性菌、ESBL産生菌、CD、血液など無菌材料からの細菌検出状況、MRSA 検出状況、抗MRSA薬使用状況、カルバペネム系抗菌薬長期使用例を週報としてまとめ、毎週（木）ICTにて検討。現場における感染対策の確認、指導。
- 2) 抗MRSA薬TDM実績、抗菌薬使用実績まとめ（薬剤部）
- 3) アンチバイオグラム（主要菌種）、材料別、病棟別分離菌のまとめ、ESBL耐性菌、高度耐性菌分離割合、流行性ウイルス検出状況など（細菌検査室）
- 4) 針刺し・切創報告集計、分析
- 5) 厚生労働省「院内感染対策サーベイランス事業」JANISへの登録  
全入院患者部門、検査部門に参加している。
- 6) 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス（外科病棟）

#### 3. 院内ラウンド

毎週（木）検討会後に、ICTメンバー3名でチェックリストを用いて現場をラウンドし、翌週までにフィードバック。週ごとにラウンド場所を変更。

#### 4. 感染管理教育（ICTメンバーで担当）

- |     |        |  |
|-----|--------|--|
| 4月  | 新人看護師  | スタンダードプリコーション、職業感染対策、輸液・静脈注射における感染管理、洗浄・消毒・滅菌、感染防止技術 |
|     | 研修医    | 感染防止対策の基本他、感染症の治療、感染症薬剤治療効果・TDM、細菌検査実習               |
| 6月  | 看護補助職員 | 感染経路別予防策と个人防护具の選択                                    |
| 11月 | 全職員    | 院内感染防止研修会「見直そう!あなたの手指衛生」                             |
| 11月 | 看護補助職員 | 注目すべき薬剤耐性菌等とその対策                                     |
| 2月  | 全職員    | 院内感染防止研修会「針刺し、切創による血液、体液曝露防止」                        |

### 3. 職業感染対策

B型肝炎、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎ウイルスの抗体価測定、ワクチン接種。インフルエンザワクチンの接種。

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎ウイルスの抗体価測定と陰性者へのワクチン接種については、2012年から3年計画で現職の医療従事者に実施しており、2014年は、入職者+残りの現職者185名に実施した。次年度からは入職者と長期休暇などで未実施の職員に実施していく。

### 5. 新型インフルエンザ等の新たな感染症に対する対応、整備

三重県新型インフルエンザ等に関する病院担当者会議（6月、11月）、北勢新型インフルエンザ等対策会議（8月、11月）に参加。11月はいずれも、エボラ対策についてであり、当院でも問診の強化や、疑い患者が来院した場合の対応、PPEの見直し準備、着脱訓練を実施した。

新型インフルエンザ等に関しては、指定地方公共機関としての「業務計画」を策定。来年は、昨年作成した診療継続計画（案）の見直し、職員への周知を行っていく。

### 6. 感染対策上問題となる環境や業務内容についての見直し、改善、指導（施設課と協同）

- 1) ポータブルトイレのパケツ更新（ベッドパンウォッシャー対応へ）
- 2) ゴーグル使用についてリーフレット作成、配布。
- 3) ノンアルコール綿花の導入（逆性石鹸、イソプロ⇒クロルヘキシジン単包）
- 4) 清掃委託業者と、消毒薬をはじめとしたカート物品について話し合い、不要なものは削除、種類の統一を行い配置表と清掃・消毒方法を改訂。
- 5) 点滴ルート管理について、ルート交換方法を改善。

### 7. 感染防止マニュアル改訂、作成

- 1) 感染症法対象疾患について
- 2) インフルエンザ対策について一部改訂
- 3) 輸液・注射薬剤のミキシングにおける感染対策について作成 他

### 8. 認定看護師教育課程 「感染管理」臨地実習の実施

三重県立看護大学地域交流センターより以下の日程で研修生を受け入れた。

2014年1月6日～1月17日 3名 （2013年度研修生）

9. 感染症法による発症届 報告

◎2類感染症 結核：16件

(参考：2013年16件、2012年18件、2011年21件)

◎3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症（O157）：1件

(参考：2013年2件、2012年3件)

◎4類感染症 デング熱：1件、レジオネラ症：4件

◎5類感染症

後天性免疫不全症候群：4件 (2013年5件、2012年3件)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：1件

侵襲性肺炎球菌感染症：2件

風疹：1件

水痘：1件

梅毒：1件

## (9) 学会・研究会発表及び論文発表実績

### 呼吸器内科

---

#### <学会・研究会発表>

- 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会 2014.7.17~19 福岡国際会議場、他
  - ・「当院で遭遇した新規肺癌 233 例の年齢群別検討」  
笹邊淳、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
  - ・「10年以上の化学療法により長期生存が得られたIV期肺腺癌の1例」  
藤原篤司、笹邊淳、油田尚総、吉田正道
  
- 第123回日本結核病学会東海地方学会・第105回日本呼吸器学会東海地方学会  
2014.6.21~22 名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)
  - ・「特発性肺線維症に合併した肺フサリウム症の1例」  
児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  - ・「大量胸水で発症した骨外性骨肉腫の1例」  
笹邊淳、寺島俊和、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  - ・「大量咯血を来した肺骨化症の1例」  
寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  - ・「当院におけるニューモシスチス肺炎症例の検討」  
前田光、寺島俊和、笹邊淳、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  
- 第124回日本結核病学会東海地方学会・第106回日本呼吸器学会東海地方学会  
2014.11.29~30 アクトシティ浜松コンgresセンター
  - ・「皮膚筋炎で発症した小細胞肺癌の1例」  
寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  - ・「家族内発症をきたした夏型過敏性肺臓炎の1事例」  
齋木晴子、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  - ・「好酸球性膿胸の所見を呈した自然気胸の1例」  
笹邊淳、寺島俊和、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  
- 第104回日本肺癌学会中部支部学術集会 2014.2.1 アスト津  
「10年間以上の継続的化学療法を行いえたIV期肺腺癌の1例」  
藤原篤司、浦田健太郎、藤原拓海、笹邊淳、前田光、中原博紀、油田尚総、吉田正道
  
- 第117回三重胸部疾患症例検討会 2014.1.14 四日市都ホテル  
「出題①. 限局性病変」  
油田尚総
  
- 三重アレルギー研究会 2014.2.20 津都ホテル  
「初喫煙開始から2週間後に発症した急性好酸球性肺炎の1例」

藤原拓海、浦田健太郎、笹邊淳、前田光、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道

●第2回北勢地区 Airway Forum 2014. 2. 21 四日市都ホテル

「当院におけるフルティフォームの使用経験」

中原博紀

●第2回真菌感染症学術講演会 2014. 3. 20 津都ホテル

「当施設におけるカスプ・ファンギンの使用経験

～NTM・ILDに合併した慢性肺アスペルギルス症例の経験を通して～」

油田尚総

<講演>

●第19回南部病診連携の会 2014. 3. 17 笹川内科胃腸科クリニック

「COPD薬剤の使い分け」

吉田正道

●気管支喘息連携フォーラム2014 2014. 8. 26 四日市都ホテル

・「当院における気管支喘息入院症例の検討」

前田光

・「気管支喘息治療におけるSMART療法の意義と実際」

吉田正道

●第18回四日市メディカル倶楽部 2014. 5. 22 四日市都ホテル

・「COPDと喘息の鑑別について」

油田尚総

●日医生涯教育協力講座セミナー「COPD診療にいかに関与するか」

2014. 12. 13 三重県医師会館

「忍び寄るCOPDの影、世界死亡原因第4位の疾患とは」

吉田正道

●第345回北勢地区呼吸器談話会 2014. 4. 21 四日市医師会館

「肺MAC症」

吉田正道

●第349回北勢地区呼吸器談話会 2014. 10. 20 四日市医師会館

「COPDと喘息の鑑別」

油田尚総

<論文>

●2007年から2011年の5年間に当院で経験した気管支喘息入院症例の検討

前田 光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

アレルギーの臨床 24 (7) 2014

## 消化器内科

---

<学会・研究会発表>

●第 271 回肝胆膵疾患研究会 2014. 1. 24

「ソラフェニブが著効した肝細胞癌・前縦隔転移の一例」

齋木良介、大矢由美、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、井上英和、高瀬幸次郎

●第 272 回肝胆膵疾患研究会 2014. 4. 18

「側副血行路の発達により総胆管狭窄をきたした肝外門脈閉塞症の 1 例」

西浦祐貴、大矢由美、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、井上英和、高瀬幸次郎

●第 100 回日本消化器病学会総会 2014. 4. 23 東京

「消化性潰瘍患者における Helicobacter pylori 除菌前後の消化管ホルモンの変動についての検討」

笠井智佳、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●三重臨床消化器病研究会 2014. 6. 7

「腸内細菌に関する研究の成果報告」

笠井智佳、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●第 10 回三重ウイルス肝炎研究会 2014. 7. 6

「腸内細菌に関する研究の成果報告」

笠井智佳、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●第 12 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2014. 7. 17~19 福岡

「多発肝転移を有するも長期生存し剖検にて原発巣を診断した膵神経内分泌腫瘍の一例」

大矢由美、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、井上英和、高瀬幸次郎

●第 273 回肝胆膵疾患研究会 2014. 9. 26

「診断に難渋する肝障害の 1 例」

田中淳一郎、川崎優也、森谷勲、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●四日市 C 型肝炎治療セミナー 2014. 11. 10

「三重県立総合医療センターの C 型肝炎治療成績(有効性・安全性)」

森谷勲、川崎優也、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●第 274 回肝胆膵疾患研究会 2014. 12. 5

「診断に難渋した IPMC の 1 例」

原澤桃子、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

## 循環器内科

---

<学会・研究会発表>

●第143回 循環器学会東海地方会 2014.7.5

「左主幹部に血栓像を認め急性冠症候群の一例」

平林陽介、廣田敦也、山本重忠、中嶋寛、森木宣行、竹内正喜、牧野克俊

●第144回 循環器学会東海地方会 2014.10.25

・「一過性の側副血行路を認めた冠攣縮性狭心症の一例」

山本重忠、廣田敦也、平林陽介、中嶋寛、森木宣行、牧野克俊

・「初期診断に難渋した孤立性右室梗塞の一例」

廣田敦也、中嶋寛、平林陽介、山本重忠、森木宣行、牧野克俊

・「繰り返す嘔吐に完全房室ブロックを合併した一例」

児玉秀治、中嶋寛、廣田敦也、平林陽介、山本重忠、森木宣行、牧野克俊

・「前下行枝に対する冠動脈形成術中に上行大動脈にいたる逆行性の冠動脈および大動脈解離を来した一例」

中嶋寛、廣田敦也、平林陽介、山本重忠、森木宣行、牧野克俊

## 神経内科

---

### <学会発表>

- 第 55 回日本神経学会学術大会 2014. 5. 22 福岡国際会議場  
「担癌患者の脳梗塞 14 例の臨床的検討」  
古田智之、三木章子、高橋雄、鈴木賢治
  
- 第 17 回 MMC 神経内科セミナー 2014. 7. 12 津都ホテル  
「救急外来で役立つ脳梗塞への初期対応」  
高橋雄
  
- 第 224 回日本内科学会東海地方会 2014. 11. 2 名古屋国際会議場  
「肺塞栓症、奇異性脳塞栓が疑われる脳梗塞に対し血栓溶解療法、血管内治療を行った 1 例」  
三木章子、古田智之、高橋雄、鈴木賢治
  
- 第 7 回三医神経内科懇話会・症例検討会プログラム 2014. 12. 20 ホテルグリーンパーク津  
「腫瘍性病変を認めた診断に苦慮した一例」  
高橋雄

## 外科

---

### <学会・研究発表>

●第 86 回胃癌学会総会 2014.3.22 神奈川 (横浜)

「当施設における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の安全性および長期治療成績の検討」

横江毅、渡部秀樹、小西尚巳、池田哲也、登内仁

●第 287 回東海外科学会 2014.4.29 愛知 (名古屋)

「虫垂炎にて形成された索状物による絞扼性腸閉塞に対し腹腔鏡下手術を施行しえた 1 例」

長野由佳、横江毅、市川崇、岩田崇、渡部秀樹、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 282 回三重外科集談会 2014.6.22 三重 (津)

「鏡視下手術を施行した食道粘膜下平滑筋腫の 1 例」

市川崇、小西尚巳、山本晃、長野由佳、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 288 回東海外科学会 2014.10.19 三重 (津)

「呼吸困難を主訴に来院した腹腔内巨大繊維腫の 1 例」

市川崇、登内仁、山本晃、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也

●第 27 回日本内視鏡外科学会総会 2014.10.4 岩手 (盛岡)

「用手補助腹腔鏡手術を施行した食道癌手術症例の検討」

小西尚巳、市川崇、長野由佳、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 22 回日本乳癌学会総会 2014.7.10 大阪 (大阪)

「孤発性肝転移に対し RFA を施行し長期 CR を維持している再発乳癌の 1 例」

小西尚巳、渡部秀樹、横江毅、矢ヶ部文、谷口智香子、重盛千香、登内仁

●第 24 回日本乳癌検診学会総会 2014.11.8 群馬 (前橋)

「当院で手術を施行された DCIS 症例の検討」

小西尚巳、渡部秀樹、横江毅、矢ヶ部文、谷口智香子、重盛千香、登内仁

●北勢緩和ケアネットワーク学術講演会 特別講演 2014.3.27 三重 (四日市)

「がん性疼痛治療 Breakthrough pain」

渡部秀樹

●第 114 回日本外科学会定期学術集会 2014.4.4 京都（京都）

「当院における腹腔鏡下虫垂切除術の現状」

渡部秀樹、尾嶋英紀、浦谷亮、長野由佳、市川崇、岩田崇、横江毅、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 19 回日本緩和医療学会学術大会 2014.6.20 兵庫（神戸）

「がん性疼痛の突出痛に対するフェンタニルクエン酸塩パッカル錠の使用経験」

三重県立総合医療センター 外科 看護部 薬剤部

三重大学医学部附属病院がんセンター、坂倉ペインクリニック在宅診療所

渡部秀樹、坂倉究、酒井美紀子、米津祐佳、川瀬佐登美、安藤真弓、小西邦彦

●第 22 回日本乳癌学会総会 2014.7.10 大阪（大阪）

「Mohs 軟膏，メトロニダゾール軟膏にて局所コントロールし術前化学療法を完遂し得た局所進行乳癌の一例」

渡部秀樹、小西尚巳、横江毅、谷口智香子、矢ヶ部文、登内仁

●第 69 回日本消化器外科学会総会 2014.7.17 福島（郡山）

「当院における上部消化管消化性潰瘍穿孔例の検討」

渡部秀樹、市川崇、長野由佳、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 27 回日本内視鏡外科学会総会 2014.10.3 岩手（盛岡）

「当院における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の導入」

渡部秀樹、山本晃、市川崇、長野由佳、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、池田哲也、登内仁

●第 6 回三重緩和医療研究会 2014.11.30 三重（津）

「当院におけるがん性疼痛の突出痛に対するフェンタニル速放性製剤の使用経験」

三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム

渡部秀樹、小西邦彦、酒井美紀子、米津祐佳、川瀬佐登美、安藤真弓、坂倉究

●第 120 回日本消化器病学会東海支部例会 2014.6.14 岐阜（岐阜）

「F P 療法施行中に S I A D H をきたした食道癌の 1 例」

岩田崇、山本晃、市川崇、長野由佳、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 12 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2014.7.18 福岡（博多）

「当科における KRAS 野生型進行再発大腸癌に対する化学療法の選択について」

岩田崇、尾嶋英紀、市川崇、長野由佳、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、

伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 114 回日本外科学会定期学術集会 2014.4.4 京都（京都）

「術前化学放射線療法後に腹腔鏡下手術を施行した下部直腸癌症例の検討」

尾嶋英紀、市川崇、長野由佳、浦谷亮、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、小西尚巳、池田哲也、登内仁

●第 69 回日本消化器外科学会総会 2014.7.14 福島（横浜）

「大腸癌イレウスに対する経肛門的イレウス管による減圧後の腹腔鏡下手術」

尾嶋英紀、池田哲也、市川崇、長野由佳、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、小西尚巳、登内仁

●松阪薬剤師会講演会 2014.10.16 松阪（三重）

「大腸癌の最近の話題 ～診断から治療まで～」

尾嶋英紀

●第 283 回三重外科集団会 2014.12.14 津（三重）

「壊疽性虫垂炎における腹腔鏡下虫垂切除術の根部処理に関する検討」

山本晃、渡部秀樹、市川崇、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第 76 回 日本臨床外科学会総会 2014.11.20 郡山（福島）

「回腸導管傍ストマヘルニアに対する腹腔鏡下修復術を施行した一例」

山本晃、尾嶋英紀、市川崇、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

<論文発表>

Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 Apr; 24(2):e41-2.

Laparoscopic sigmoidectomy using a hemi-double-stapling technique.

Ojima E, Ikeda T, Noguchi T, Watanabe H, Yokoe T, Ito H, Konishi N, Tonouchi H.

## 心臓血管外科・呼吸器外科

---

### <学会・研究会発表>

●心不全学術講演会 2014. 1. 28 四日市

「心臓血管外科におけるトルバプタンの使用経験」

矢田真希、庄村心、鈴木仁之、近藤智昭

●第104回 日本肺癌学会中部支部会 2014. 2. 1 津

「下肢麻痺をきたした悪性リンパ腫の1例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第114回 日本外科学会総会 2014. 4. 3~5 京都

「非結核性抗菌薬に対する内科的治療と外科的治療の検討」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

●第42回 日本血管外科学会学術総会 2014. 5. 21~23 青森

「急性期に大動脈治療を行わなかった偽腔開存型急性A型大動脈解離症例の予後」

近藤智昭、庄村心、矢田真希、鈴木仁之

●第31回 日本呼吸器外科学会総会 2014. 5. 29~30 東京

・「胸腔鏡下手術における肋間神経ブロックの有用性に対する検討」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

・「下肢麻痺をきたした悪性リンパ腫の1例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第55回 日本肺癌学会総会 2014. 11. 14~16 京都

・「胸水貯留で発症した骨外性骨肉腫の1例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

・「肺化膿症と膿胸を合併したG-CSF産生肺多形癌の1例」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

### <論文発表>

●心臓血管手術周術期にeltrombopag投与が有効であった特発性血小板減少性紫斑病

床村心、片山芳彦、草川均、駒田拓也

胸部外科 67(3):203-206, 2014

●多発性内分泌腺腫症(MEN) 1型に合併した非定型気管支カルチノイドの1手術例

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭、島本亮

日本呼吸器外科学会雑誌 28(5):646-650, 2014

●多嚢胞性腫瘍像を呈した限局性悪性胸膜中皮腫の1手術例

鈴木仁之、庄村心、真栄城亮、井上健太郎、矢田真希、近藤智昭

日本呼吸器外科学会雑誌 28(7):876-881, 2014

## 脳神経外科

---

### <学会発表>

- 第 21 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2014. 9. 26～27 宮崎  
「頸髄腫瘍切除後、頸椎の著明な後弯形成をきたし、椎骨動静脈瘻を繰り返した Neurofibromatosis type 1 の一例」  
亀井裕介
  
- 第 29 回日本脊髄外科学会 2014. 6. 12～13 東京  
「胸髄硬膜外海綿状血管腫の一例」  
亀井裕介
  
- Stroke2014 2014. 3. 13～15  
「破裂内頸動脈血豆状動脈瘤に対する術中トラブル時の対応」  
亀井裕介
  
- 第 23 回脳神経外科手術と機器学会 2014. 4. 18～19 福岡  
「Cortical bone trajectory を応用した腰椎固定術の経験」  
亀井裕介
  
- 脳神経学会集談会 2014. 5. 9  
「開頭手術にて治療せしめた海綿静脈洞外壁の硬膜動静脈瘻の一例」  
深澤恵児
  
- 第 39 回日本脳卒中学会 2014. 3. 13～15  
「両側皮質動脈閉塞により四肢麻痺をきたした脳静脈血栓症の一例」  
山道茜
  
- 第 86 回日本脳神経外科学会 中部地方会 2014. 4. 26  
「外傷性脳底動脈解離をきたした斜台骨折の一例」  
山道茜
  
- 三重大阪脊柱脊髄外科シンポジウム 2014. 5  
「前方固定術を要した頸椎骨折の二例」  
山道茜
  
- 三重脳卒中フォーラム 2014. 10  
「内頸動脈瘤における前床突起削除の有用性—その後の西川ラインの検証」  
山道茜
  
- 三重脳神経外科集談会 2014. 11  
「結節性硬化症の臨床症状を示さない上衣下巨細胞性星細胞腫の一例」  
山道茜

●第32回日本脳腫瘍学会学術集会 2014.11.30~12.2 東京

「結節性硬化症の臨床症状を示さない上衣下巨細胞性星細胞腫の一例」

山道茜

## 小児科

---

### <学会・研究会発表>

- 第 260 回日本小児科学会東海地方会 2014. 2. 9  
「ヘリコバクターピロリ陽性の胃潰瘍と診断した 1 歳 6 ヶ月男児例」  
鈴木 尚史
  
- 第 261 回日本小児科学会東海地方会 2014. 5. 18  
「背部に広範な皮下膿瘍を形成した 2 歳女児例」  
伊藤 雄彦
  
- 第 262 回日本小児科学会東海地方会 2014. 10. 5  
「ウイルス感染に続発し、抗リン脂質抗体が陽性であった 2 例」  
服部 共樹
  
- 第 50 回中部日本小児科学会 2014. 8. 10  
「原発性繊毛運動不全症の兄弟例」  
浅野 舞
  
- 第 21 回三重県胎児新生児研究会 2014. 7. 20  
「先天性魚鱗癬が疑われ、遷延性下痢、繰り返す感染、体重増加不良を来した一例」  
伊藤 雄彦
  
- 第 370 回北勢地区小児臨床懇話会 2014. 3. 12  
「けいれん重積型急性脳症の 2 歳女児例」  
栗原 康輔
  
- 第 372 回 北勢地区小児臨床懇話会 2014. 5. 14
  - ・「先天性心疾患術後の児が頻回嘔吐を呈した一例」  
山田 慎吾
  - ・「ガーナの小児医療の現状 - 学生・後期研修医時代の国際経験」  
栗原 康輔
  
- 第 375 回 北勢地区小児臨床懇話会 2014. 9. 10  
「痙攣後に一過性片麻痺を来した HHV6 感染による急性脳症の 1 例」  
北村 創矢
  
- 第 376 回 北勢地区小児臨床懇話会 2014. 10. 8  
「眼振、発達障害を呈した 10 カ月男児例」  
奥田 太郎
  
- 第 377 回 北勢地区小児臨床懇話会 2014. 11. 12  
「出生後に右口角下垂と哺乳緩慢を認め日齢 3 で紹介となった女児例」

安田 泰明

●第 378 回 北勢地区小児臨床懇話会 2014. 12. 1

「持続する低カリウム血症の一例」

山田 慎吾

## 産婦人科

---

### <学会発表>

- 第 16 回三重県産婦人科疾患治療研究会 2014.2 津  
「薬物療法後の経過観察中に卵巣癌を発生した子宮内膜症の 1 例」  
伊藤雄彦、田中浩彦、南結、伊藤譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記
  
- 第 134 回東海産科婦人科学会 2014.2 名古屋  
「MRSA 感染により、難治性の敗血症に至った 1 例」  
中野譲子、谷口晴記、伊藤雄彦、南結、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫
  
- 平成 26 年初期研修医発表会 2014.2 四日市  
「卵巣妊娠の 1 例」  
高倉翔（指導医 田中浩彦）
  
- 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会 2014.4 東京  
「外陰癌治療後妊娠の 1 例」  
鳥谷部邦明、千田時弘、伊藤譲子、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫、谷口晴記、池田智明
  
- 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会 2014.4 東京  
「わが国独自の【HIV 母子感染予防対策マニュアル】改訂第 7 版について」  
谷口晴記、山田里佳、千田時弘、井上孝実、蓮尾泰之、林公一、喜多恒和、大島教子、明城光三、和田裕一、稲葉憲之、塚原優己
  
- 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会 2014.4 東京  
「MRSA による産褥熱のため、全身性炎症性反応症候群(SIRS)を来した一例」  
中野譲子、谷口晴記、伊藤雄彦、南結、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫
  
- 第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会 2014.4 東京  
「当科における腹腔鏡下子宮体がん根治手術導入について」  
近藤英司、本橋卓、平田徹、谷田耕治、奥川利治、田畑務、池田智明、田中浩彦、安藤正明
  
- 第 31 回日本産婦人科感染症研究会 2014.6 神戸  
「妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する調査—2004 年と 2012 年を比較して—」  
山田里佳、谷口晴記、塚原優己
  
- 第 31 回日本産婦人科感染症研究会 2014.6 神戸  
「市中感染型 MRSA により、帝王切開後の難治性敗血症を来した 1 例」  
中野譲子、谷口晴記、大内由貴、南結、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫
  
- 第 23 回三重県産婦人科腫瘍研究会 2014.7.3 津

「我々の行う腹腔鏡下子宮体癌手術」保険収載後の現状」

秋山登、田中浩彦、高倉翔、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●日本周産期・新生児医学会総会 2014.7.14 浦安

「腹腔鏡下子宮筋腫核出術の周産期予後に与える影響」

小林良成、田中浩彦、中野譲子、朝倉徹夫、谷口晴記

●第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2014.9.11 鹿児島

「子宮内膜症との鑑別を要し、腹腔鏡下に切除した rectorectal cystic hamartoma の1例」

南結、田中浩彦、秋山登、高倉翔、徳山智和、大内由貴、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2014.9.11 鹿児島

「当科における卵巣腫瘍合併妊娠に対する腹腔鏡下手術の留意点」

小林良成、田中浩彦、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2014.9.11 鹿児島

「卵巣内膜症性嚢胞から発生した卵巣癌に対し、腹腔鏡下手術を施行した1例」

田中浩彦、秋山登、高倉翔、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、長尾賢治、本橋卓、紀平知久、近藤英司

●第7回三重県産婦人科内分泌研究会 2014.10.9 津

「術前に内膜症性嚢胞との鑑別が困難であった rectorectal cystic hamartoma の1例」

田中浩彦、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2014.10.25 名古屋

「腹腔鏡下手術を施行した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例」

大内由貴、田中浩彦、高倉翔、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2014.10.25 名古屋

「当科で行う腹腔鏡下子宮体癌手術」

秋山登、田中浩彦、高倉翔、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2014.10.25 名古屋

「レゼクトスコープ使用が功を奏した大腸癌術後早期子宮体癌の1例」

小林良成、田中浩彦、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

- 第 15 回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2014.10.25 名古屋  
「診断に難渋した卵管捻転の 2 例」  
徳山智和、田中浩彦、高倉翔、秋山登、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、  
谷口晴記
  
- 第 29 回三重母性衛生学会 2014.11 津  
「当院の性暴力事例のまとめ」  
井澤美穂、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、田中浩彦、  
朝倉徹夫、谷口晴記
  
- 第 28 回エイズ学会総会 2014.12 大阪  
「特別ディスカッション（シンポジウム）良好な経過を示す HIV 陽性妊婦の分娩方法～選  
択的帝王切開か経膈分娩か～わが国における分娩方法の選択の考え方―帝王切開と普通  
分娩のメリットとデメリット」  
谷口晴記
  
- 第 27 回性感染症学会総会 2014.12 神戸  
「重度の免疫能低下を伴った HIV 合併尖圭コンジローマの 3 例」  
小林良成、谷口晴記、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、  
田中浩彦、朝倉徹夫
  
- <講演>
- 三重県 HIV 講演会 2014.1 津  
「HIV 母子感染予防対策マニュアル第 7 版の概要について」  
谷口晴記
  
- 桑名 Gynecology Conference 2014.3 桑名  
「当科における腹腔鏡下手術の現状〔内膜症、筋腫例を中心に〕」  
田中浩彦
  
- 桑名市総合医療センター感染症講演会 2014.3 桑名東医療センター講堂  
「HIV/AIDS」  
谷口晴記
  
- 平成 26 年東海連合会細胞診基礎講習会 2014.6 名古屋  
「子宮頸部細胞診（腫瘍）」  
田中浩彦
  
- 三重県ラパロ研究会 2014.10 津  
「当科における腹腔鏡手術の変遷」  
田中浩彦

<論文>

- 【産婦人科処方ofすべて-すぐに使える実践ガイド】 産科編 偶発合併症妊娠 HIV  
谷口晴記、千田時弘、塚原優己  
臨床婦人科産科 68 巻 4 号, 296-299, 2014.
- 【女性と感染症 Up to Date】 HIV 感染症  
塚原優己、喜多恒和、外川正生、吉野直人、谷口晴記  
産科と婦人科 81 巻 4 号, 468-472, 2014.

<著書>

- 「HIV 母子感染予防対策マニュアル」改訂第 7 版  
塚原 優己、谷口晴記他  
平成 25 年度厚労省H I V母子感染対策予防班、2014. 3

## 整形外科

---

### <学会発表>

●第 44 回日本人工関節学会 2014.2.21～22 宜野湾市

「TKAにおいて大腿骨遠位骨切りを Tower bridge guide で行なった際の矢状面アライメント 5° 屈曲 cutting guide を使用して」

北尾淳、松本壽夫、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮

●第 122 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2014.4.11～12 岡山市

「膝離断性骨軟骨炎で固定材料の HA/PLLA ピンの突出・逸脱により新たに軟骨損傷を生じた 1 例」

森本剛司、松本壽夫、北尾淳、奥山典孝、鈴木慶亮

●第 87 回日本整形外科学会学術総会 2014.5.22～25 神戸市

「人工膝関節置換術における Tower Bridge Guide による大腿骨遠位骨切り—新しい TKA 大腿骨髄外ガイド作成への道—」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮

●6th JOSKAS 2014.7.24～26 広島市

「大腿骨滑車部軟骨損傷に対する自家培養軟骨細胞移植術手技の工夫」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮

●第 123 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2014.10.3～4 名古屋市

「サルコイドーシス関節症に TKA を行った一例」

奥山典孝、北尾淳、森本剛司、岡村直樹

### <研究会発表>

●第 7 回東海人工関節研究会 2014.2.1 名古屋市

「Tower Bridge Guide VS Signature、TKA インプラント 設置精度評価」

北尾淳、松本壽夫、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮

●第 24 回三重関節鏡・関節外科研究会 2014.12.4 津市

「膝蓋骨亜脱臼及び大腿骨外顆軟骨損傷を伴った外反膝に対し大腿骨遠位骨切り術を施行した 1 例」

森本剛司、北尾淳、奥山典孝、岡村直樹

### <論文発表>

●当科における特発性大腿骨内顆骨壊死に対する Oxford UKA の治療成績と手術時の工夫

北尾淳、森本剛司、鈴木慶亮

JOSKAS 39 巻 2 号 Page386-387 2014.04 発行

- 内側開大式高位脛骨骨切り術における骨髓液含浸 $\beta$ -TCP 充填後のリモデリングの検討  
鈴木慶亮、松本壽夫、北尾淳、森本剛司、奥山典孝  
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 57 巻 3 号 Page599-600 2014.05 発行
  
- 膝離断性骨軟骨炎で固定材料の HA/PLLA ピンの突出・逸脱により新たに軟骨損傷を生じた 1 例  
森本剛司、松本壽夫、北尾淳、奥山典孝、鈴木慶亮  
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 57 巻 5 号 Page969-970 2014.09 発行
  
- TKA において大腿骨遠位骨切りを Tower bridge guide で行なった際の矢状面アライメント 5° 屈曲 cutting guide を使用して  
北尾淳、松本壽夫、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮  
日本人工関節学会誌 44 巻 Page629-630 2014.12 発行
  
- TKA インプラント設置精度評価 Tower Bridge Guide vs Signature  
北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹  
東海関節 6 巻 Page91-95 2014.12 発行

## 看護部

---

- 第8回 日本医療マネジメント学会 三重支部学術集会 2014.10.11  
「病院看護師在宅医療派遣研修での学び ー急性期看護と在宅看護の連携にむけてー」  
鈴木由希子、江川伸子、川島いづみ
  
- 第34回 日本看護科学学会 学術集会 2014.11.29  
「新人指導担当看護師の現状と思い ー新人看護師への指導時の注意と負担感ー」  
加藤梓、若林たけ子、灘波浩子、橋本秀実、井上直子
  
- 第34回 日本看護科学学会 学術集会 2014.11.29  
「急性疾患で入院中の幹事ときょうだいの面会に対する看護師の認識」  
服部世奈、前田貴彦、水谷あや、杉野健士郎
  
- 第34回 日本看護科学学会 学術集会 2014.11.30  
「入院中の思春期女子への看護介入における男性看護師の思い」  
増本小春、前田貴彦、水谷あや、杉野健士郎
  
- 第34回 日本看護科学学会 学術集会 2014.11.29  
「女性患者への羞恥心を伴う看護に対する男性看護師の認識と実際  
ー男性看護師の年代別での比較ー」  
伊藤大輔、前田貴彦、立松生陽、上杉佑也、辻本雄大、水谷あや、荒木学、杉野健士郎、  
宮崎つた子
  
- 日本栄養改善学会 東海支部学術集会 2014.6.29  
「スキンケア患者の栄養状態について」  
柴いづみ、林恵里、加古智子、大川恵美

## 中央放射線部

---

### <学会発表>

●日本超音波検査学会 学術集会 2014.06.14

「限局性胆嚢腺筋腫症の内腔側高輝度線状エコーについて」

安本浩二

●日本超音波医学会 2014.09.06

「虫垂炎との鑑別に苦慮した内ヘルニアの1例」

安本浩二

●三重県放射線技師会学大会 2014.11.14

「限局性胆嚢腺筋腫症の内腔側高輝度線状エコーについて」

安本浩二

●JSS 中部 2014.11.30

「造影超音波が有用であった肝細胞癌の1例」

安本浩二

●日本放射線技術学会秋季大会 2014.10.10

「整形外科領域のCT画像における非線形ウィンドウ処理の検討」

恒川和弘

●三重県放射線技師学術大会 2014.11.14

「320列 Non-Helical スキャンにおけるCT値の差が体軸方向のアーチファクトに及ぼす影響について」

恒川和弘

●第7回中部放射線医療技術学術大会 2014.11.02

「新人教育と部門を超えた活動」

寺西 良太

### <講演>

●日本消化器画像診断情報研究会 2014.02.02

「達人が教える超音波検査 胆道」

安本浩二

●津柙原地区画像研究会 2014.02.21

「当院のCT検査」

安本浩二

●JSS 学術大会 2014/6/14

「超音波道場 症例 知恵と知識で let's go」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2014. 07. 13

「胆道系の超音波」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2014. 10. 26

「胆道系の超音波」

安本浩二

●三重CTカンファレンス 2014. 12. 03

「実際に計測してみようMTF」

恒川和弘

## 中央検査部

---

<学会・研究会発表>

- 平成 25 年度 三重県臨床検査精度管理調査報告会 2014. 1. 19 三重県総合文化センター  
「神経伝導検査」  
坂下文康
  
- 第 25 回日本臨床微生物学会総会 2014. 2. 1～2 名古屋国際会議場
  - ・「三重県での  $\beta$  ラクタマーゼ標準検査法策定の取り組み」  
海住博之、一見啓子、別所裕二、中村明子、中野学、川口香、伊藤忍、山田里子
  - ・「当院におけるマイコプラズマ検査状況～EIA 法と LAMP 法の比較検討」  
高羽桂、東薫、海住博之
  - ・「三重県内の分離された酵母様真菌の薬剤感受性」  
東薫、一見啓子、海住博之、川口香、木下絵里、高羽桂、田畑隆江、中川藍、中野学、  
中村明子、別所裕二、山田里子、松田眞澄、若林広美
  
- 第 21 回三重細菌真菌研究会 2014. 2. 22 グリーンパーク津  
「当院におけるマイコプラズマ検査状況～EIA 法と LAMP 法の比較検討」  
海住博之、高羽桂、東薫、高橋あけみ、杉山謙二
  
- 第 36 回三重県医学検査学会 2014. 2. 23 三重県総合文化センター  
「三重県内で分離された酵母様真菌の薬剤感受性」  
東薫、一見啓子、海住博之、川口香、木下絵里、高羽桂、田畑隆江、中川藍、中野学、  
中村明子、別所裕二、山田里子、松田眞澄、若林広美
  
- 第 21 回 日本神経生理検査研究会 中部支部研修会 2014. 3. 15 名古屋市立大学  
「神経伝導検査の基礎」  
坂下文康
  
- 第 88 回日本感染症学会学術講演会・第 62 回日本化学療法学会総会合同総会  
2014. 6. 18～20 ヒルトン福岡シーホーク  
「三重県内医療機関で分離された Candida 属の薬剤感受性」  
高羽桂、海住博之、森尚義、榎屋友幸、村木優一、田畑隆江、中野学、中村明子、  
別所裕二、若林広美、鈴木圭、今井寛
  
- 平成 26 年度 三重県臨床検査技師会 第 3 回神経生理勉強会 2014. 9. 18 済生会松阪総合病院  
「神経伝導検査の基礎、ハンズオン含む」  
坂下文康

●三重 検査ソリューションフェア 2014.10.18. アスト津

「神経伝導検査のハンズオンセミナー」

坂下文康

●第37回三重県医学検査学会 2014.11.16 三重県総合文化センター

- ・「幼児の皮下膿瘍から Mycobacterium bovis BCG (BCG 菌) が分離された 1 症例」

東薫、海住博之、高羽桂、西森久史

- ・「MSSA か MRSA の判定に苦慮した Staphylococcus aureus の 1 例」

海住博之、東薫、高羽桂、別所裕二

- ・「仕事のモチベーションを高める検査の魅力」

坂下文康

●平成26年度 三重県臨床検査精度管理調査報告会 2014.12.7. 三重県総合文化センター

「神経伝導検査」

坂下文康

<論文掲載>

- 「Emergence of extended-spectrum  $\beta$ -lactamase-producing *Escherichia coli* in catheter-associated urinary tract infection in neurogenic bladder patients.」

Kei Takaba, Katsumi Shigemura, Kayo Osawa, Masashi Nomi, Masato Fujisawa,  
Soichi Arakawa

Am J Infect Control 2014;Mar;42(3):e29-31

<執筆>

- 「尺骨神経の神経伝導検査時の肘の角度」

坂下文康

月刊「Medical Technology」42 (2) : 182-184, 2014.

## 麻酔科

---

<学会・研究会発表>

●日本麻酔科学会第61回学術集会 2014.5.15

「自動麻酔記録ソフト“zero-chart”の作成」

川端広憲、坂本正、笹邊萌絵、庄村千恵子、古橋一壽

●日本臨床麻酔学会第34回学術集会 2014.11.2

「対側荒無肺を伴う気胸手術の麻酔経験」

庄村千恵子、坂本正、川端広憲

## 薬剤部

---

### <講演>

- 平成 26 年度 HIV 感染症薬剤師研修会・HIV 栄養担当者研修会 2014. 6. 21 金沢

「よくわかる HIV 母子感染予防対策」

森尚義

### <学会発表>

- 第 24 回日本医療薬学会年会 2014. 9. 27 名古屋

「大腿骨頸部骨折患者におけるエドキサパンの使用状況と有害事象発現についての検討」

佐々木貴之、日沖雅人、森尚義、北尾淳

「がん化学療法における患者情報提供ツールの作成と運用について」

日沖雅人、山川智一

- 第 8 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2014. 10. 12 大阪

「Tenofovir による腎機能障害の危険因子に関する検討」

森尚義、林雅彦、八重徹司、谷口晴記

- 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014 2014. 11. 9 静岡

「C 型慢性肝炎に対する新旧 3 剤併用療法の有効性と安全性」

森尚義、森谷勲

- 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会 2014. 12. 5 大阪

「Tenofovir による腎機能障害の危険因子に関する検討」

森尚義、林雅彦、八重徹司、谷口晴記

### <依頼原稿・寄稿>

- 薬剤師定数を考える～歴史と定数増要求にかかるロジック～

日沖雅人

週刊薬事新報、第 2822 巻、5-6 頁、2014.

<研究会発表>

●第3回日本栄養改善学会東海支部会学術総会 2014.6.29

「スキントア患者の栄養状態について」

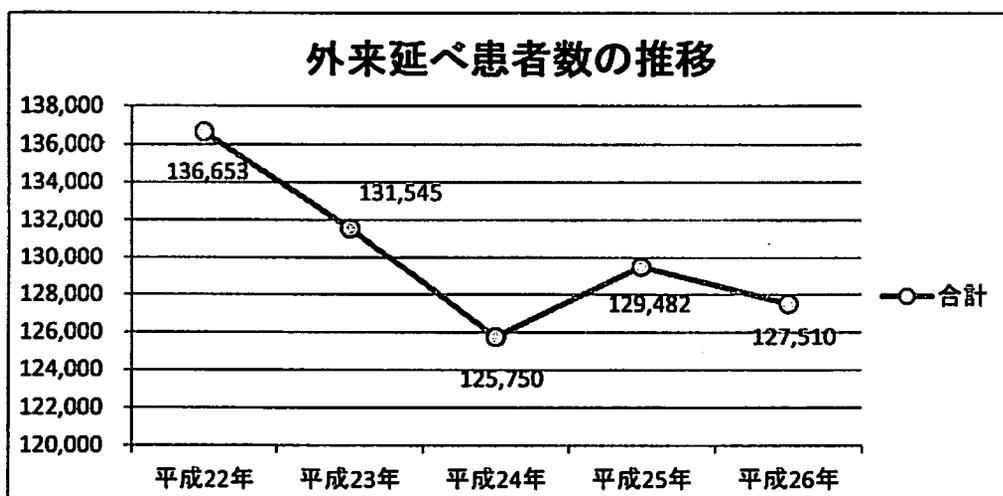
秦いづみ

## 4. 統計データ

### (1) 患者統計

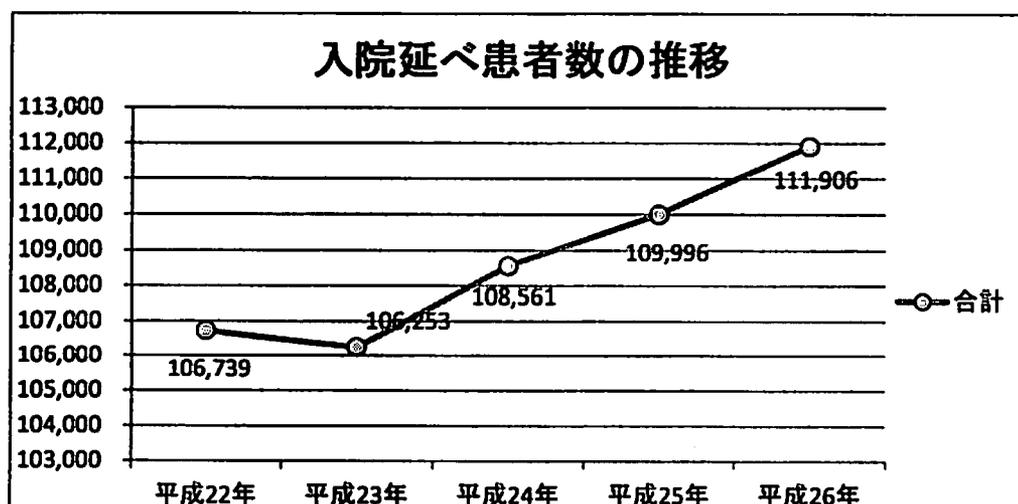
#### 《診療科別外来延べ患者数》

科	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
内科	6,321	6,426	6,811	6,083	6,036
外科	13,801	12,105	12,322	13,665	13,471
心臓血管外科	1,531	1,561	1,492	1,336	1,178
脳神経外科	5,567	6,217	5,628	5,344	5,129
小児科	14,533	15,018	16,733	16,478	16,027
産婦人科	14,761	14,806	16,128	17,108	17,187
整形外科	12,180	12,220	10,845	10,783	10,471
リハ科	1	1	0	0	0
皮膚科	4,297	5,394	2,755	5,243	5,556
泌尿器科	7,503	6,915	6,274	6,325	6,693
眼科	0	0	0	1,062	1,698
耳鼻咽喉科	4,958	3,569	1,322	1,726	1,970
精神科	5,491	5,139	4,619	4,150	3,897
放射線科	2,798	2,234	726	0	0
神経内科	3,973	4,071	4,208	3,912	3,484
循環器内科	12,174	11,769	10,925	10,656	10,120
呼吸器内科	11,963	11,060	10,396	9,848	10,118
消化器内科	14,244	12,587	11,783	12,100	10,961
呼吸外科	557	453	311	457	442
放射線診断科	0	0	737	1,134	1,199
放射線治療科	0	0	1,735	2,072	1,873
合計	136,653	131,545	125,750	129,482	127,510



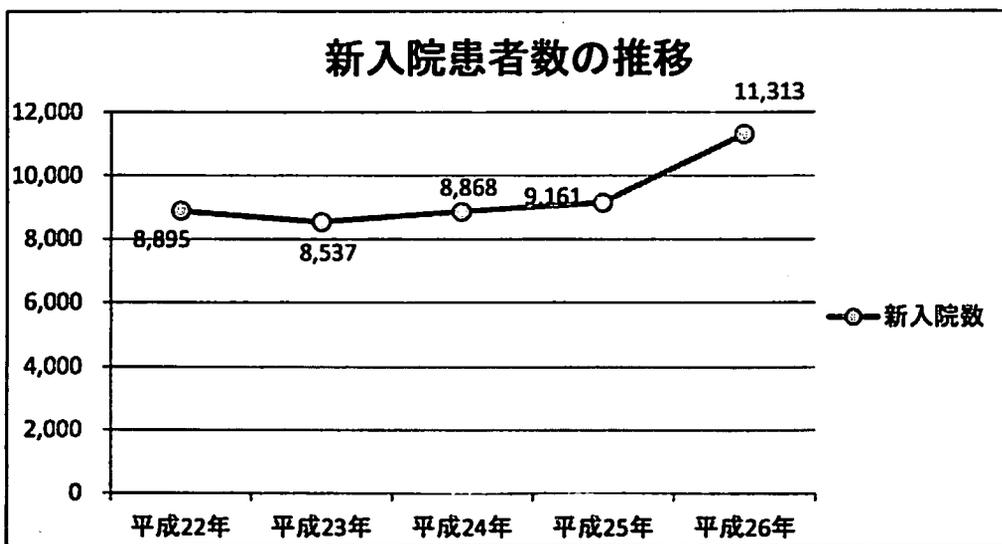
《診療科別入院延べ患者数》

科	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
内科	0	0	15	0	0
外科	14,063	15,514	14,236	15,887	15,652
心臓血管外科	2,559	3,137	3,252	3,207	2,298
脳神経外科	9,288	9,886	10,452	10,801	11,172
小児科	11,784	12,141	12,637	11,210	12,567
産婦人科	11,292	11,259	11,745	11,937	13,210
整形外科	10,754	12,028	12,064	12,154	12,493
皮膚科	174	413	210	422	363
泌尿器科	3,333	3,027	2,774	2,218	2,351
眼科	0	0	0	6	3
耳鼻咽喉科	320	49	0	0	92
精神科	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0
神経内科	5,319	5,063	5,084	5,051	6,048
循環器内科	8,626	7,497	7,459	7,623	7,473
呼吸器内科	16,033	15,334	16,928	18,007	18,280
消化器内科	11,498	9,409	9,886	9,874	8,480
呼吸外科	1,696	1,496	1,819	1,599	1,424
放射線診断科	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0
合計	106,739	106,253	108,561	109,996	111,906



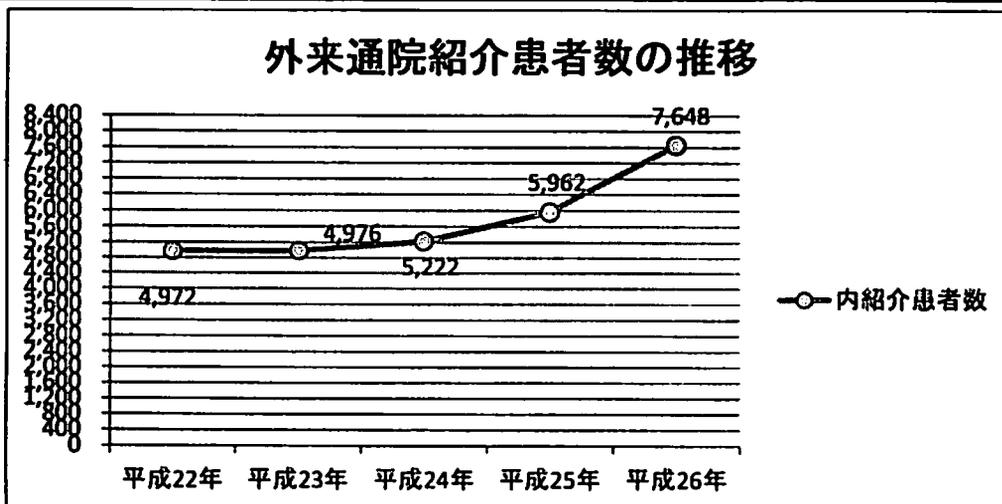
《入退院状況》

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
新入院数	8,895	8,537	8,868	9,161	11,313
内紹介入院数	804	958	1,394	1,254	2,013
内救急入院数	1,680	2,285	3,351	3,557	4,235
転科入院数	313	310	257	260	316
退院数	8,860	8,505	8,915	9,134	11,259
内死亡退院数	459	502	455	465	551
転科退院数	310	310	257	260	316
平均在院日数	12.0	12.5	12.2	12.0	12.5



《外来通院状況》

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
初診数	17,741	18,594	20,232	20,335	24,137
内紹介患者数	4,972	4,976	5,222	5,962	7,648
内救急患者数	9,530	10,175	11,591	10,919	12,276
平均通院日数	7.7	7.2	6.2	6.4	6.7



(2) 病歴管理室統計

疾病別・診療科別・性別・退院患者数(ICD10小分類)

(H26.1.1~H26.12.31)

コード	病名	性別	総計	内科	外科	心臓血管科	脳神経科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科		
		総計	19510	0	2712	230	707	3457	2085	1445	48	458	1	27	0	0	0	0	0	0	0	0	231	
0-0101	原因の明らかなる腸管感染症	男	95	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	8	12	0
		女	87	0	0	0	0	49	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8	8	0
0-0102	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	男	90	0	7	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8	14	0	0
		女	103	0	17	0	0	81	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	13	0	0
0-0103	呼吸器感染症	男	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	12	0	1	0
		女	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0
0-0104	その他の結核	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
0-0105	百日咳	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0106	敗血症	男	100	0	19	0	0	12	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	10	41	14	0	0
		女	83	0	10	0	0	13	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	4	18	7	0	0
0-0107	その他の細菌性疾患	男	69	0	8	0	0	21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	23	7	3	0
		女	32	0	4	0	0	15	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	17	7	3	0	0
0-0109	腸管感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0110	重くして性的伝染病と見られるその他の感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0111	ヘルペスウイルス感染症	男	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0112	水痘	男	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0113	帯状疱疹	男	8	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
		女	9	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0
0-0116	皮膚及び粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	男	25	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	20	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0117	B型肝炎ウイルス肝炎	男	24	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	21	0
		女	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0
0-0118	C型肝炎ウイルス肝炎	男	51	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	45	0	0
		女	37	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	32	0	0
0-0119	その他のウイルス肝炎	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0123	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)病	男	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0121	ムンプス	男	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0122	その他のウイルス疾患	男	23	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	3	0	0	0
		女	21	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0
0-0124	カンジダ症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
0-0125	その他の真菌症	男	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	2	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
0-0126	結核の肺外・他臓症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
0-0127	その他の感染症及び寄生虫症の感染・伝達症	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0128	その他の感染症及び寄生虫症	男	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
0-0201	口唇、口腔及び喉頭の悪性新生物	男	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-0202	食道の悪性新生物	男	37	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
0-0203	胃の悪性新生物	男	174	0	118	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11	39	39	2	0
		女	65	0	44	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	2	0	0
0-0204	結腸の悪性新生物	男	88	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	15	15	1	0
		女	77	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	14	0	0
0-0205	直腸・肛門周囲及び直腸の悪性新生物	男	81	0	39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9	9	0	0
		女	29	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9	0	0	0
0-0207	肝及び肝内胆管の悪性新生物	男	71	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	58	1	0
		女	34	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0
0-0208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	男	14	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	9	0	0
		女	16	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0



コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科		
c-0404	インスリン依存性糖尿病	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	
		女	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-0405	インスリン非依存性糖尿病	男	232	0	10	12	2	0	0	8	0	0	3	0	0	0	0	0	29	99	30	42	0	
		女	122	0	4	2	0	0	0	19	2	0	1	0	0	0	0	0	14	23	16	29	1	
c-0403	その他の糖尿病	男	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	4	0	
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	0	
c-0407	糖尿病性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0408	糖尿病(症)及び糖尿病性腎症	男	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4	1	0	
		女	7	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	
c-0409	糖尿病(症)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
		女	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	
c-0410	高血糖症	男	172	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	139	3	7	0	
		女	53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	12	26	4	10	0	
c-0411	体重減少(症)	男	51	0	8	0	0	19	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7	11	1	0	
		女	62	0	11	0	0	27	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	11	7	0	
c-0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男	154	0	11	0	0	69	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	27	20	11	0	
		女	127	0	7	0	0	52	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	19	24	14	1	
c-0501	血管性及び詳細不明の認知症	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	
c-0502	アルコール使用(飲酒)による精神及び行動の障害	男	15	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	
		女	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0503	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0504	統合失調症、統合失調症型障害及び双極性障害	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	
		女	6	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	
c-0505	気分(感情)障害(うつ病を含む)	男	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	
		女	12	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	6	1	0	
c-0506	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体疾患性障害	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
		女	9	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	
c-0507	知的障害<精神遅滞>	男	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0508	その他の精神及び行動の障害	男	17	0	3	0	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	
		女	11	0	2	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	
c-0601	脳腫瘍	男	27	0	0	0	2	20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	13	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0602	中枢神経系の炎症性疾患	男	11	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
		女	7	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	
c-0603	青髄性脳腫瘍症及び関連症候群	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
c-0604	パーキンソン病	男	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	2	1	
		女	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	1	2	0	
c-0605	アルツハイマー病	男	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	3	2	
		女	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	3	0	0	
c-0606	多発性硬化症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
c-0607	てんかん	男	71	0	0	0	10	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	9	6	0	
		女	60	0	0	0	6	39	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	7	3	1	
c-0608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0609	一過性脳虚血発作及び関連症候群	男	13	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	
		女	15	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	1	0	
c-0610	癲癇障害	男	8	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	
		女	7	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	
c-0611	神経、神経根及び神経そのものの障害	男	14	0	0	1	1	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	
		女	17	0	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	1	0	
c-0612	慢性疼痛及びその他の疼痛性症候群	男	21	0	0	1	2	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	1	2	0	
		女	29	0	2	0	3	6	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	8	1	5	1	0	
c-0613	自律神経系の障害	男	8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
c-0614	その他の神経系の疾患	男	64	0	1	0	20	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	13	2	5	2	0	
		女	36	0	2	1	15	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	4	1	0	
c-0701	狭心症及び心臓病	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0703	脳腫瘍	男	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	泌尿器外科	
c-0705	白内障	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0707	網膜血管閉塞症	男	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0708	緑内障	男	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0709	斜視	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0710	屈折及び調節の障害	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0712	その他の眼及び付属器の疾患	男	98	0	3	0	2	43	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0
		女	49	0	0	0	0	43	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0
c-0801	外耳炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0802	耳湿疹	男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0804	中耳炎	男	18	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	16	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-0808	その他の中耳及び乳様突起の疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0811	その他の内耳疾患	男	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	1	0	0
		女	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
c-0812	聴覚	男	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-0901	本態性(原発性)高血圧(度)	男	298	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	73	178	16	25	2	0
		女	147	0	3	0	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	38	58	12	28	1	0
c-0902	高血圧性心疾患	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0905	二次性高血圧症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0906	狭心症	男	303	0	1	23	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	259	8	8	2	0
		女	67	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	1	2	0	0
c-0907	急性心筋梗塞	男	60	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	50	6	2	0	0
		女	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	15	0	0	0	0
c-0908	冠動脈硬化症	男	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
c-0909	陈旧性心筋梗塞	男	104	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	81	5	6	0	0
		女	14	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	1	0	0
c-0910	その他の虚血性心疾患	男	11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	3	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0
c-0911	慢性リウマチ性心疾患	男	8	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		女	11	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
c-0912	慢性リウマチ性心臓疾患	男	37	0	1	13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	1	2	0	0
		女	38	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	3	0	0	0
c-0913	心筋症	男	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	1	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
c-0914	不整脈及び伝導障害	男	229	0	0	7	2	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	24	124	36	15	8	0
		女	161	0	10	8	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	22	77	29	9	0	0
c-0915	心不全	男	192	0	4	8	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4	125	30	10	0	0
		女	137	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	84	31	13	0	0
c-0916	その他の心疾患	男	19	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	4	2	0	0
		女	12	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	1	1	0
c-0917	くも膜下出血	男	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	32	0	0	0	24	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0	0	0
c-0918	脳内出血	男	77	0	3	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	3	7	6	0
		女	52	0	1	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	3	0	0
c-0919	脳梗塞	男	220	0	3	2	25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	15	19	13	3	0
		女	135	0	3	2	11	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	85	9	8	11	2	0
c-0920	脳動脈硬化(度)	男	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	12	0	0	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
c-0921	その他の脳血管疾患	男	82	0	1	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	4	1	0	1	0
		女	57	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	1	0	2	0	0
c-0922	脳脊髄症	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	1	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	1	0	0
c-0923	動脈硬化(度)	男	54	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	44	2	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	歯科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	
c-0224	大動脈瘤及び解離	男	03	0	3	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30	3	2	3
		女	31	0	1	10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	6	1
c-0225	動脈の器性変化及び血栓症	男	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-0227	その他の動脈、静脈及び毛細血管の疾患	男	10	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	3	0
		女	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
c-0228	静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の器性変化及び血栓症	男	20	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	5	1
		女	23	0	3	0	0	0	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	5	1
c-0229	下肢の静脈瘤	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
c-0330	痔瘻	男	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0331	食道静脈瘤	男	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0
		女	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
c-0332	圧血圧(症)	男	10	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0
		女	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0333	その他の循環器系の疾患	男	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1001	急性扁桃炎(かぜ)<総論>	男	8	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1002	急性副鼻腔炎	男	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
c-1003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	男	42	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	51	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0
c-1004	急性喉頭炎及び気管炎	男	12	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1005	その他の急性上気道感染症	男	42	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	7	0	0	0
		女	40	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	2	1	1	0	0
c-1006	インフルエンザ	男	30	0	0	0	0	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	0	0
		女	32	0	1	0	0	20	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	4	2	0	0
c-1007	肺炎	男	261	0	18	1	1	100	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	22	182	8	4	4
		女	187	0	8	0	2	68	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	20	71	12	1
c-1008	急性気管支炎	男	193	0	3	0	0	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	12	0	0
		女	187	0	0	0	0	157	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	1	0
c-1009	急性細気管支炎	男	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1010	アレルギー性鼻炎	男	13	0	1	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	18	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1011	慢性副鼻腔炎	男	9	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		女	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1013	扁桃炎及びアデノイドの慢性疾患	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1014	その他の上気道の疾患	男	11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	2	2	0
		女	11	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4	1	0	0
c-1015	急性又は慢性と認められない気管支炎	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1016	慢性閉塞性肺疾患	男	128	0	2	4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	13	103	3	8
		女	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	0
c-1017	喘息	男	123	0	2	0	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	20	5	0
		女	105	0	4	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	47	2	0
c-1018	気管支拡張症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
c-1019	じん肺(症)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1020	肉質性肺疾患	男	80	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	82	3	1
		女	32	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	5	0
c-1021	気胸	男	74	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	45	1	21
		女	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	2
c-1022	その他の呼吸器系の疾患	男	109	0	47	4	3	7	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	17	27	147	21	17
		女	147	0	19	0	1	7	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	8	15	68	19
c-1104	口内炎及び関連疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1105	その他の口腔、咽喉頭及び喉の疾患	男	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管科	神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	腎臓科	外科	
c-1105	胃潰瘍	男	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	22	0
		女	20	0	5	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	17	0	0
c-1107	十二指腸潰瘍	男	24	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	12	0	0
		女	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
c-1109	胃炎及び十二指腸炎	男	10	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0
		女	12	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
c-1110	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	男	51	0	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	23	0	0
		女	21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0
c-1111	虫垂の疾患	男	0	0	52	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	37	0	34	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
c-1112	風症ヘルニア	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1113	その他のヘルニア	男	10	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
		女	21	0	13	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	2	0	0
c-1114	クローン病	男	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1115	潰瘍性大腸炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0
		女	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1116	腸閉塞	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	33	0	0
		女	0	0	41	0	0	4	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	31	0	0
c-1117	過敏性腸症候群	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1118	便秘	男	10	0	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
		女	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-1119	膵炎及び痔瘻	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1120	その他の胃腸の疾患	男	121	0	40	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	73	0	0	0
		女	0	0	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	53	0	0
c-1121	胆膵の疾患	男	37	0	31	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0
		女	23	0	14	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
c-1122	アルコール性肝疾患	男	20	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	21	0	0	0
		女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
c-1124	肝硬変(アルコール性のものを除く)	男	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0
c-1125	その他の肝疾患	男	70	0	4	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	10	27	0	0	0
		女	30	0	3	0	0	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	0	0	0
c-1126	胆石症	男	110	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
		女	120	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0
c-1127	胆のう炎	男	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
		女	17	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	13	0	0
c-1128	急性膵炎	男	20	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	10	0	0	0
		女	17	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0
c-1129	慢性膵炎	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-1130	その他の膵疾患	男	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-1131	その他の消化器系の疾患	男	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	0	0	12	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0
c-1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男	0	0	0	1	1	10	0	0	5	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
		女	20	0	4	0	1	20	2	1	3	0	0	2	0	0	0	0	1	3	2	0	0	0
c-1202	アトピー性皮膚炎	男	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1203	強癩皮膚炎	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
c-1204	その他の皮膚炎及び湿疹	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
		女	4	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1205	じんま疹	男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1212	その他の皮膚炎及び皮下組織の疾患	男	20	0	2	0	0	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	0	0	0
		女	20	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0
c-1301	脳脊髄液	男	10	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	0	0
		女	24	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0
c-1302	痛風	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1303	その他の炎症性多発性関節炎	男	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0
		女	10	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0									

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管科	脳神経科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	歯科	放射線科	麻酔科	神経科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	
c-1304	脳腫瘍	男	39	0	0	2	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
		女	89	0	0	0	0	0	0	89	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1305	四肢の先天性変形	男	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	17	0	0	0	0	1	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1306	腸内腫	男	25	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	28	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1307	脳神経	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1308	その他の脳神経	男	18	0	1	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	18	0	0	0	0	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1310	血液疾患科(シェーグレン症候群)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		女	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0
c-1312	その他の全身性結合組織障害	男	33	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	6	1	0
		女	23	0	0	0	0	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4	1	0
c-1313	腎臓障害(腎臓病を含む)	男	73	0	3	1	48	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	1	3	1	2
		女	35	0	1	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0
c-1314	腎臓腫瘍	男	17	0	0	0	7	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	16	0	0	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
c-1316	尿毒症及び血透析症	男	6	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
c-1317	その他の腎臓病	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1318	その他の腎臓障害	男	6	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
c-1319	軟骨組織障害	男	41	0	1	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	10	0	0
		女	24	0	2	0	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0
c-1320	肩の傷害<損傷>	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1321	骨粗しょう症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	0
c-1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男	12	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1323	骨髄炎	男	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1324	幼年性骨軟化症<骨粗症>	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男	11	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	27	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1401	急性及び慢性進行性腎臓疾患	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
c-1402	ネフローゼ症候群	男	3	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1403	その他の糸球体疾患	男	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-1404	腎臓血管障害性疾患	男	43	0	11	0	0	7	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	1	5	8	2	0
		女	37	0	2	0	4	13	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	5	6	3	4	0
c-1405	慢性腎不全	男	60	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	22	3	6	0
		女	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	6	0
c-1406	その他の腎不全	男	31	0	10	2	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	3	11	12	3	0
		女	18	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	4	0
c-1407	尿結石症	男	19	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
		女	13	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
c-1408	膀胱炎	男	6	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1409	その他の泌尿器系の疾患	男	114	0	15	0	1	15	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	8	19	23	13	0
		女	148	0	5	0	2	30	13	2	0	5	0	0	0	0	0	0	11	19	44	18	0
c-1410	直立位尿失禁(度)	男	28	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	2
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1411	その他の男性生殖系の疾患	男	24	0	3	0	0	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1412	乳房の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1413	乳房炎及び乳房炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1415	その他の女性生殖系の炎症性疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	28	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0

コード	病名	性別	数	男	女	心臓血管外科	神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	
c-1416	子宮内腫瘍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	58	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1417	女性性器脱	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1418	心臓、卵管及び子宮広開膜の非炎症性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1419	月経障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1422	その他の女性生殖系の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	131	0	1	0	0	0	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1501	自然分娩	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1502	医学的人工授精	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	27	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1503	その他の授精	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	30	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1504	妊娠高血圧症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	25	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1505	妊娠早期の出血(切迫流産を含む)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	28	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1509	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩期出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	21	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1507	その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに予想される分娩の諸問題	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	241	0	0	0	0	2	238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1508	早産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1509	分娩後出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	10	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1510	早産自然分娩	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	183	0	0	0	0	0	183	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1511	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	223	0	0	0	0	1	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1512	主として産科に関連する合併症及びその他の産科的病態、他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1601	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	男	82	0	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	81	0	0	0	0	80	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1602	出産外傷	男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1603	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	男	73	0	0	0	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	57	0	0	0	0	56	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1604	周産期に特異的な感染症	男	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1605	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	男	90	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	89	0	0	0	0	88	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1606	その他の周産期に発生した病態	男	148	0	0	0	0	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	201	0	0	0	0	200	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1702	その他の神経系の先天奇形	男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1703	心臓の先天奇形	男	28	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	26	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0
c-1704	その他の循環器系の先天奇形	男	4	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	14	0	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
c-1705	嚥食及び口蓋裂	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1707	その他の消化器系の先天奇形	男	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1709	その他の胃腸生殖器系の先天奇形	男	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-1710	その他の泌尿器系の先天奇形及び脱肛	男	7	0	1	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1714	その他の先天奇形	男	8	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1715	染色体異常、他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1801	腹痛及び骨痛	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	歯科	神経内科	管理内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科		
c-1822	めまい	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	
		女	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
c-1823	不妊症	男	23	0	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
		女	19	0	0	0	0	14	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1824	尿痛	男	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
c-1825	老衰	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1826	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	334	0	52	5	13	87	0	3	0	17	0	3	0	0	0	25	38	74	18	1	0	0
		女	227	0	24	3	10	74	18	1	1	5	0	1	0	0	0	17	21	35	15	0	0	0
c-1827	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	男	28	0	18	0	8	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	3	0	5	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1828	頭骨、胸骨及び骨盤の骨折(脊髄を含む)	男	120	0	53	3	18	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	0	4	0	0
		女	87	0	34	1	18	0	1	28	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0
c-1829	大頰骨の骨折	男	52	0	5	1	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	108	0	3	0	0	0	0	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
c-1824	その他の四肢の骨折	男	212	0	35	0	12	0	0	160	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0
		女	148	0	28	2	1	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1825	多指位の骨折	男	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1826	切られた指位及び多指位の脱臼、挫傷及びストレッチ	男	224	0	25	0	4	2	0	183	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	204	0	13	0	2	0	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1827	球状及び環状の損傷	男	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1828	頭蓋内損傷	男	118	0	39	0	87	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		女	57	0	17	1	34	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-1829	その他の内臓の損傷	男	65	0	48	1	1	0	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		女	23	0	20	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1830	切られた指位及び多指位の挫傷、損傷及び外傷切創	男	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1831	その他の切られた指位、指位不明及び多指位の損傷	男	150	0	248	2	32	8	0	48	1	8	0	0	0	0	0	2	1	1	0	2	0	0
		女	182	0	119	1	13	2	1	44	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
c-1832	自然開口部からの異物侵入の作用	男	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
c-1833	咬傷及び歯食	男	28	0	22	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	8	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1834	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	男	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
		女	12	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0
c-1835	服用を主とし無い物質の悪作用	男	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	8	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
c-1836	虐待症候群	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1837	その他及び詳細不明の外国の作用	男	43	0	4	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	8	3	0	0	0
		女	28	0	4	1	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	8	0	0	0
c-1838	外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	男	88	0	45	2	4	2	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	16	6	4	0	0
		女	50	0	15	0	8	0	8	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	3	1	0	0
c-1839	損傷、中毒及びその他の外国による影響の感染・後遺症	男	7	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2104	伝染病に関連する健康被害をきたす恐れのあるその他の者	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2106	分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2107	その他の生児に関連する環境下での保護サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2110	特定の犯罪(虐待)及び及び保護ケアのための保護サービスの利用者	男	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2112	その他の理由による保護サービスの利用者	男	68	0	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	45	1	1	1	1	1
		女	16	0	7	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0

### (3) 図書蔵書状況

蔵書状況(2014年12月31日現在)

	図書	視聴覚資料	計
外国	11冊	0巻	11
国内	991冊	98巻	1089
合計	1002冊	98巻	1100

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	29タイトル
国内雑誌	64タイトル
計	93タイトル